

トカラ語 B «*Buddhastotra*» (讃仏詩) 写本再建の試み*

荻原裕敏

キーワード: トカラ語仏典 (根本) 説一切有部 «*Buddhastotra*» (讃仏詩)

要旨

現在知られているトカラ語 B の写本断片中、少なからぬ断片が «*Buddhastotra*» (讃仏詩) に比定されることが、先行研究によって指摘されている。本稿では、同一写本に属することが指摘されている複数の写本断片を利用して、校訂が可能な讃仏詩の再建を試みる。ここで扱われるのは既公表のトカラ語 B 断片 B203–206 並びに B71–76 中の讃仏詩であり、これらの断片とほぼ同一の内容を含むことが筆者によって初めて指摘された旅順博物館・ロシア所蔵断片との比較に基づいて、新しい転写・韻文の再建並びに和訳を与える。別稿で論じたように、これらの断片が示す本文の異同から、ドイツ・イギリス・旅順・ロシアに所蔵される各写本断片は、それぞれ異なる段階のトカラ語 B の文字特徴及び言語特徴を反映するものの、これらは同一の原典に対する異本であると推定される。

1. トカラ語 B 文献中に含まれる «*Buddhastotra*» (讃仏詩) について

各国に所蔵されるトカラ語 B の写本断片中、少なからぬ断片が «*Buddhastotra*» (以下、「讃仏詩」とする) に比定されることが、先行研究によって指摘されている。これまでに指摘されるところに従えば、これらの断片の多くはドイツに所蔵されており、中国旅順博物館所蔵の 1 点 (= B204) も含め、49 点の断片が TochSprR(B) II: 120–152 で «*Buddhastotra*» に分類されている。また、これとは別に、«*Araṇemi-Handschrift*» の冒頭部分 B71–76 も讃仏詩に比定されている¹。讃仏詩に比定される断片は大部分が完全には残っておらず、サンスクリット文献との比較対照に困難があるため、それなりの量があるとは言え、トカラ語 A 文献中の讃仏詩断片と比較して、研究が遅れている状況である²。

* 本稿は、JSPS 科学研究費研究補助金基盤研究(B)『旅順博物館所蔵非漢字資料に関する総合的研究』(研究代表者: 龍谷大学国際文化学部三谷真澄准教授・課題番号 20320012) に研究協力者として参加して以来、筆者が調査研究を継続してきた成果に属する。なお、筆者は 2013 年 11 月・2017 年 11 月に旅順博物館にて、また 2017 年 1–2 月にベルリンで調査を行う機会を得た。調査にあたっては旅順博物館・王振芬館長並びに同博物館のスタッフの方々、ベルリン＝ブランデンブルグ科学アカデミー・トゥルフアン研究所の方々にお世話になった。特に記して、感謝申し上げる。

¹ TochSprR(B) II: 11–16 を参照。なお、B75 はイギリス所蔵断片であり、現在の所蔵番号は IOL Toch 89 である。興味深いことに、同書中で «*Buddhastotra*» とされている断片は、シオルチュク出土のサンスクリットとの二言語併用断片 B251 を除いて、全てクチャで発見されている。これに関連して、«*Araṇemi-Handschrift*» はシオルチュク発見とされるが、その内 B75 は当初与えられた番号からクチャ地域出土と推定される。

² ここではトカラ語による断片についてののみ言及し、サンスクリットとの二言語併用断片に関する先行研究には触れない。ロシア所蔵の 2 点については、Mārceta の «*Vārṇārhavarṇastotra*» との関連が指摘されている。このロシア所蔵断片に関する最新の研究としては、Pinault (2016a, 2016b) を参照。なお、未公表のロシア所蔵断片 SI B 2943-3 の表面が B204 と同一の内容であることは、荻原 (2018: 2–5) で初めて指摘された。その他の讃仏詩

2011 年以来、筆者は旅順博物館所蔵ブラーフミー文字資料の調査研究に従事しており、讃仏詩に比定される断片が存在すること、並びにそれらの内の 10 点が既公表の断片と同一の内容を含んでいることに気づき、荻原 (2012: 99–100) でその概要を紹介するとともに、荻原 (2019) でこれらの断片が反映する文字特徴・言語特徴に関して、既公表の断片との比較対照研究を行った。ただ、これらの断片を利用して復元した讃仏詩全体を提示する機会がこれまでなかったため、上記拙稿では部分的な引用に留まっていた。そこで、本稿では、既公表の断片並びに筆者によって比定された旅順博物館及びロシア所蔵断片を利用して、これらの写本断片に含まれる讃仏詩の再建を提示する。

2. 写本断片の紹介

荻原 (2012: 99–100) で紹介したように、讃仏詩に比定される旅順博物館所蔵断片は 36 点に及び、その内 10 点が既公表の断片と同一の内容を含んでいる。内容によって、筆者はこれらの断片群を写本 A・写本 B の二つのグループに分けた。即ち、写本 A は B203–206 に、一方写本 B には B71–76 に対応する断片を分類した。旅順博物館・ロシア所蔵断片の発見場所に関する記録は残っていないが、脚注 1 で言及したように、既公表のものについては、前者がクチャ（発見場所不明の旅順博物館所蔵の B204 を除く）、後者がショルチュクで発見されている（クチャ出土と推定されるイギリス所蔵の B75 を除く）。

既公表の断片の内、B203, 205–206 並びに B71–74, 76 がそれぞれ同一の写本に帰属する点は³、TochSprR(B) II: 120, 11 で指摘されている。また、筆者が比定した旅順博物館所蔵断片も、断片のサイズ・文字特徴などの形態的特徴から、それぞれ同一の写本に属していたと考えられるため、写本 A・写本 B には異本が三つずつ存在していることになる⁴。この事実は、これらの讃仏詩がクチャ仏教では非常に人気があったことを反映していると考えられ、クチャ仏教の研究上、非常に価値がある資料と言える。また、写本 A・写本 B の讃仏詩は全体として内容が検討されたことはなく、これらの韻文の再建はトカラ語学界における初めての試みである⁵。以下、第三節では写本 A を、また第四節では写本 B を扱う⁶。

に属するトカラ語 B 断片については、B204 を扱った井ノ口 (1961) 及び B71–76 に対する Couvreur (1954: 103–104) のオランダ語訳を除いて、断片全体に対する現代語訳が提示されたことはなく、その一部が言語学的研究に利用されているに過ぎない。一方、トカラ語 B 文献と比較して数は少ないが、TochSprR(A) で出版されたトカラ語 A による讃仏詩断片 8 点は Mātreceta の *«Vamārhavamāstotra»* に基づき、同一の写本に属していることが明らかになっている。これらの断片については、Pinault (2008: 282–283) が先行研究を紹介しており、参考になる。

³ なお、B207–209 も先行する B203, 205–206 と同一の写本に属する点が指摘されているが、韻律や韻文の番号が異なっており、別の作品に属するため、ここでは対象としない。

⁴ 写本 A 並びに写本 B に属する各断片の対応関係については、本稿末尾の附表を参考。写本 A 末尾の二つの韻文は B249 にもほぼ同一の内容のものが見られるが、韻文に附された番号が異なっており、同一写本の異本とは言えない。

⁵ 写本 B の韻文は Couvreur (1954: 103–104) によるオランダ語訳が存在するが、当該の論文は TochSprR(B) II 所収の断片中、特に重要な断片をオランダ語訳によって紹介することを主な目的としており、文献学的な検討は為されていない。

⁶ 本稿では再建した詩節に対して注釈と和訳を与えているが、紙幅の都合上、注釈は最低限に留め、索引とともに別の機会を期したい。また、以下に紹介するように、各国所蔵の写本断片が示す言語特徴は異なっており、B203, 205–206 及び B73–76 の欠落部分を旅順所蔵断片で補うことには問題があるが、紙幅の都合上、対応する

3. 写本 A の校訂

3-1. 写本 A の各写本が反映する文字特徴・言語特徴・異読について

表 1 に示したように、写本 A の校訂に対しては、ドイツ・旅順・ロシア所蔵の三つの異本とドイツ所蔵断片 B249 が利用可能である。これらの異本が示す文字特徴・言語特徴・異読については、荻原 (2019: 96–100) で比較対照研究を行ったが、母音の長短など細かい点にわたり、全ての特徴を説明できないため、重要な点についてのみ指摘した。ここでは、重複を避けるため、文字特徴・言語特徴及び異読について主要な点を指摘するにとどめる⁷。

3-1-1. 文字特徴

ドイツ所蔵写本 B203, 205–206: Standard (ただし、若干古風な字体を示す) ; B249: Standard
旅順所蔵写本: Standard

ロシア所蔵写本: Standard (ただし、書き誤りも散見され、丁寧な字体とは言えない)

3-1-2. 言語特徴

ドイツ所蔵写本: 古代期～古典期⁸

旅順所蔵写本: 古典期

ロシア所蔵写本: 概ね古典期に属するが、古代期の特徴も散見⁹

B203a3: <i>wīnas(k)au</i>	B204b2: <i>wināskauc</i>	SI B 2943-3a2: <i>winaskauc</i>
B203b2, 4: <i>tañ</i>	B204a1: <i>tañ</i>	SI B 2943-3b4: <i>tūñ; a1: (t)añ</i>
B203a3: <i>aknatsañe</i>	LM-20-1552-8 frg.1a3: <i>(a)knātsamñe</i>	SI B 2943-3a4: <i>aknātsañe</i>
B203b2: <i>kārtsešc</i>	B204a1: <i>kartseš</i>	

3-1-3. 異読

I. 語順・表現の相違

B203b2–3: *k_u(s)e ksa perneñca šaišene | (tw)e (no) po cem šarkatai*

B204a1–2: *se ksa perneñc onolmi | cem tve posa šarkatai*

II. 語形の相違

SI B 2943-3a1: */// klyomñai akšāsta*

B204b1: *ytāri klyomñai aksasto*

III. 用語の相違

SI B 2943-3a3: *enkalynēššem śānmānma*

本文を全て提示することはできないため、ここでは異なる言語特徴を統一した上で、疑似的に再建される本文を提示することは控えた。

⁷ トカラ語 B 断片の文字特徴については Malzahn (2007)、言語特徴については Peyrot (2008) を参照。なお、言語特徴については、Archaic, Classical, Late/Colloquial の用語が使用されているが、ここでは便宜的に「古代期、古典期、後期・口語」の和訳を使用する。

⁸ Peyrot (2008: 220, 233) を参照。なお、これらの断片の言語特徴の内、Thomas (1993: 172) は母音 <a><ā><ä> の使い分けを指摘しているが、これらの母音の使い分けはトカラ語 B 内部における異なる年代区分を示す指標であるという認識が、この研究が出版された当時は学界に受容されていなかったため、年代区分については指摘されていない。

⁹ ここで例として挙げた言語特徴については、Peyrot (2008: 33–41, 72–75) を参照。

B204b3: *eṅkalñeṣṣeṃ ñemna po*

第 40 詩節を除いて、これらの異読は内容の本質的な部分に関わるものではなく、各写本が反映するトカラ語 B の年代的相違と解釈されるものが殆どである。なお、第 40 詩節は断片の欠落が大きく、体系的な比較は困難であるが、同一詩節の異訳の可能性が高い。

3-2. 写本 A の転写

本節では、本稿で再建に利用する写本断片全点の転写を与える。B203–206, 249 については、TochSprR(B) II: 120–123, 150 で転写が出版されているが、筆者の調査によって既公表の読みを改善することができた。注釈中で、これらの改善部分に言及する¹⁰。前述のとおり、これらは異なる写本に属するため、ここでは写本ごとに分けて、転写を与える。なお、以下の転写で欠落部分に推定した akṣara 数は、それぞれ同一写本に属する断片に基づいた概算であり、確定的なものではない¹¹。

3-2-1. ドイツ所蔵写本

B203: 22b–27b

Size (左側断片) w: 17.2 × h: 6.5 cm; (右側断片) w: 5.5 × h: 6.0 cm; (全体) w: 23.4 × h: 6.5 cm

a

- 1 ·[s]k· m· p[e] rn· rñ· sa y· {-} - -^[1] -^[2] [tʂ] \ {- - - -} - ñ \ -
[t]· ñ· s· - {- - - - - - - - - -}
- 2 tse [20] 2 pernerñesa l· lya[s]ta n[e]tt[e āś]trā^[3] [aka]lšlyeśc\ yam[ś]ac\ pe[rne]
{- - - - -} - - - -
- 3 rāñcmem dīrka[nak]ī {- -}^[4] O [t]w[e] aknat[s]añe yai[ka]sta kakawu po kle[śa]
{- -} rn· [rñe] - w[ī]na[s](·)[au] {-}
- 4 20 3 po pernentam še[s]irku pernerñesa snaiy olypo [la]laikau po pernesa {-
-} - rñai kleśa[nma pe]-
- 5 rnerñeše sumersa [tā]prauñenta[tʂ] \ - [r]ne - ś[m]as[ta o](·) [śmem] snai wace
[p]o {- - - -} ·au {- - (-)}

b

- 1 - rānmasa onolm[e](·) pe rn· [r]ñ· mpa [r]· [t]· sta y[a]kt· [p]· [r]ñ[e] w·
k· m· [t]· [ñ]·^[5] {- - - -} ·[śa] {- -}
- 2 śtasta śatkalye pernerñeś[ai] onolmets\ pontats\ [kār]tse[ś]c \ a<la>lcu^[6] tañ\
perne[r]ñ[e] {- -} skau 20 5 [k]u(·)e [k]sa

¹⁰ 写本 B の断片も含め、本稿で扱う既公表の断片の画像は、旅順博物館所蔵の B204 を除き、TITUS, IDP, CEToM の各サイトで閲覧可能である。

¹¹ 本稿では、以下の転写方式を使用する。

[]: 破損によって読みが不確実な箇所
·: akṣara 中の欠けている子音若しくは母音
{ }: 破損により推定された欠落部分
<>: 行間に書かれた追記部分

(): 筆者によって推定された箇所
\$, ©: 断片中の punctuation
=: sandhi

- 3 *perneñca śaiṣe[n]e (·)e {-}* O *po cem śarkatai piś\ cmelaṣeṃ onolme[t͡s] pe*
 {- - -} *še[k] spelkesu [śau]-*
- 4 *lanmaṣe pitosa ce p· rnerñe kraupatai tañ\ pernerñe saim yamoṣ\ pe {- - -*
 - - -} *·e [20] - [pe] (·)[e]-*
- 5 *r[ñ]enta aiṣeñcai trai - [tuk p]o saṃ - ·e {-} ·e {-} śa[r] kau[c]ṽ*
·ermenta [yt]· {- - - - - - - - -}

[注釈]

本断片は folio の左端から全体のほぼ三分の二を含む左側断片と、当該 folio 右端を含む小断片の二つの断片から成っており、左端から約 5.0cm の位置に紐穴が穿たれている。TochSprR(B) II: 12 には本断片の folio 番号に関する記述はないが、裏面の左端にはブラーフミー文字の数字が二つ見られる。両者とも左半分を欠いており、確定することは困難であるが、下の数字は<5>と読むことができる。上の数字は<20>のように見えるが、<80>或いは<90>の可能性もある。

- (1) 或いは、*[y]*·かも知れない。なお、TochSprR(B) II: 120 は、後半の転写を与えていない。
- (2) 或いは、*[kṣ]*·かも知れない。
- (3) TochSprR(B) II: 120 はこの語を(*sū*)*tr̥ga* としているが、残存部分から最初の *akṣara* を<*sū*>と読むには無理がある。また、二番目の *akṣara* についても、基字は<*ṭa*>には見えない。
- (4) TochSprR(B) II: 120 はこの箇所にかṣṣi ‘master’を推定するが、紐穴の左下には文字跡のようなものが残っている。これが文字跡であるならば、<*ṣṣa*>ではなく、付加母音の<*u*>と解釈され得るため、*kāṣṣi* という推定は成立しない。
- (5) TochSprR(B) II: 121 はこの箇所を読んでいないが、*[t](a)[ñ]*と推定される。
- (6) 二番目の *akṣara* である<*la*>は、<*lcu*>の上に追記されている。

B205: 32c–37a

Size w: 17.5 × h: 6.4 cm

a

- 1 {- - - - - - - - - (-)} *ñ(ṽ) s· s· (·)[n]· poyś[i]ñana kr[e]nt[au]na*
šeḵ\ ñ[i] t[a]śy[e](·) aṛaṇc[a] 30 [2]
- 2 {- - - - - - - - - (-)} *śaktālyi papalarsa ci ñakta nervvaṃn oko k̄alale*
krent\ ka[r]tse
- 3 {- - - - - - O} *[ś]· śaktalye inaṃ k̄astwer\ katnau ñaś\ ñemek takoy[ñ*
a]śle
- 4 {- - - - - - - - -} *snai yparwe k̄alpau taka k̄amntwo ñī pernerñempa*
śpalmemñ ce ma nai nta ·[o]
- 5 {- - - - - - -} *l(·)au w[ia] weḷ(·)esa yam··^[1] bhīṣe[k] perneṣe [laika]ly(·)esa*
 - *[k](·)e [t](·) [ś](·) {- -}*

b

- 1 {- - - - - } - (·)s· (·)[p]· (·)[l]· (·)m· c\ (·)[p]· (·)[p]· (·)n· (·)nt· (·)[s]· (·)š· (·)[k]u (·)[s]n^[2] {- - - } - {- - - - - }
- 2 {- - - - - (-)} [r]me tañ\ perne kaskoytar ñi yke postam tañ\ pernešai
skiyaine ñaś ra
- 3 {- - - - - (-)} O [t]aupe kraupe še ysomo pernerñe[s]e tatakau
pernerñeše yatal[yñ]e
- 4 {- - - - - - - - } [k yai]tkorne^[3] klyeñca ñiś\ somo[t]kāñe šek takoymä
cau pernerñe
- 5 {- - - - - - - - } nt[r̥a] 30 6 pernerñesa še ysomo k_uce ñaś\ ñakta
pa [l](·)· (·)[e]

[注釈]

本断片は、紐穴右側から folio の右端までを含んでいる。韻文に附された番号から、B203 と本断片の間に 1 folio 欠落していると思われる。

- (1) 或いは、yam[w](a)と読めるかも知れない。
- (2) この箇所に対して、TochSprR(B) II: 122 は転写を与えていない。他の断片との比較によって、
p(a)l(a)m(ai)c p(o)p(er)n(e)nt(am) š(e)š(ir)ku sn(ai)と再建することができる。
- (3) この語の最初の akšara の基字は、<ka>のように見える。

B206: 37b–40d

Size (左側断片) w: 9.7 × h: 6.3 cm; (右側断片) w: 3.3 × h: 4.1 cm

a

- 1 {- - - (-) -} ko_i oko nem[c]ek wak[ĩ]tse akalkatse {- - - - - - - - }
- yñ· {-}
- 2 {- - - - (-)} [n]moyma ente skeyi kesentr̥a 30 [7] {- - - - - - - - }
- lpanma a (-)
- 3 {- - - - - (-)} O - lyyasta pernerñenta krau - {- - - - - - - - }
maim pal[s](·)o
- 4 {- - - - - - - - } pernerñe yarke tañksa wī {- - - - - - - - } -
- {-} (-)
- 5 {- - - - - - - - } [n]masa ña[k](·)et[s̥a] pa[l]au {- - - - - - - - }
- - - {-} (-)

b

- 1 {- - - - - - - - } (·)[m]· (·)[n]· ·s· - - - ^[1] - - {- - - - - - - - }
- - - - - {-} (-)
- 2 {- - - - - - - - } p̥arsanta šem = akšarsa^[2] ne {- - - - - - - - } ·[k]·
c^[3] ·[r]· ·[t]·^[4] {-} (-)

3 {- - - - - } O [ñ]iñ\ walke spartatsi [t]· {- - - - - }
·[t]s· pi akna -

4 {- - - - (-)} || [BLANK]

[注釈]

B206 には、紐穴の右側に位置すると見られる二つの断片が収められている。この内、小断片はほぼ folio の右端に相当し、TochSprR(B) II: 123 で表面の転写が与えられているが、裏面は割愛されている。ここでは、これまで提示されることがなかった裏面の転写も与えている。筆者の解読の結果、前掲 TochSprR(B) II で提示されている、二つの断片間の欠落の推定には無理があることが明らかとなり、本稿では新たに推定し直している。

- (1) この箇所に対して、TochSprR(B) II: 123 は転写を与えていない。
- (2) 二番目の akṣara は、<me>に附した母音<e>を抹消し、<ma>に修正している。
- (3) この箇所は、(winās)k(au)c と復元できるかも知れない。
- (4) この箇所は、(k)r(en)t(auna)と復元できるかも知れない。

B249: 9b–10d (= 38b–d, 40b–d)

Size w: 18.3 × h: 3.7 cm

a

1 yśiñ = ikeś\ lahyyasta pernerñenta kraupā[t]· © y[āta] ·[s]· [tai] maim palsko {- - - }

2 wakīce § po cme- O laṣṣe pern· rñe yarke ta[ñk]s[a] wināskauc\ 9 k_uce ñiś\ {- - - }

3 lamai rekaunasa perñenta [s]em = akṣārsa postañ[ñ]e [n]enku [nā] {- - }

b

1 ntauna © kos te pos[tā]ṃ saṃsārne kliñiñ walka^[1] [s]pārtatsi © tañ\ pe[r]n· {- - - }

2 ñi yekte perñe O wikoytarñ^ā 10 || makte kertte lastāñkme(·) [BLANK]

[注釈]

B249 に相当する THT249 には、同一の写本に属すると見られる三つの断片が登録されている。ここでは、B249 に対応する THT249 fig.a のみを扱い、残りの二点については扱わない。本断片は folio の右端を欠いており、左端から約 5.0cm の位置に紐穴が穿たれている。左端は残存しているが、folio 番号は記されていない。

- (1) TochSprR(B) II: 150, fn. 6 は、walk(e)への修正を指摘している。

[対応箇所]

a1 = B206a3; a2 = B206a4; a3: cf. B206b2; b1: cf. B206b3; b2: cf. B206b3

LM20-1551-22 (= B204): 25c–29a

Size w: 26.2 × h: 5.6 cm

a

- 1 *rn[e]rñešše onolmeṁṭṣ\ © pontamṭṣ\ kartseṣ\ alālycu tañ^ā\ pernerñe wināskau ©*
20 5 se ksa pe-
- 2 *rneñc^ā\ onolmi O ceṁ twe posa šārkatai © piṣ\ cmelaṣṣeṁ onolmeṁṭṣ*
pernerñeṣ\ šeḵ
- 3 *spelkessu © śaula- O nmaṣše pitosa ce pernerñe kraupātai © tañ^ā\ pernerñe*
saiṁ\ yāmoṣ
- 4 *perneñc^ā\ ka po klautkāre © 20 6 pernerñenta aiṣṣeñcai traidhātuk\ po*
saṁsār[ś]ṣeṭṣ\ © ceclu šar kauc^ā

b

- 1 *permento ytāri klyomñai aksasto © snātkūweṣ tañ^ā\ pernesa indrinta śleḵ\ kektseñe*
© pernerñesa
- 2 *tsatsaikaṣ\ posa O perneñ\ wināskauc^ā\ 20 7 pernerñe[sa] wyāksasta^[1]*
tṣarśalñenta lakle-
- 3 *ṣṣeṁ © pernerñesa O ekasta eñkalñeṣṣeṁ ñemna po © pernerñeṣše āgatsta*
śonaiṣše
- 4 *wse nekasta © pernerñesa yaikasta aknātsaṁñeṣṣ = orkamñe © 20 8 pernerñesa*
makāntso yāta

[注釈]

本断片は B204 として TochSprR(B) II: 121 で転写が出版されており、Sieg 及び Siegling は提供された写真に基づいて転写を行った旨が本断片に対する説明に記されている。当時彼らが入手した写真では folio 番号を読み取れなかったために言及されていないが、本断片裏面左端には <259> という folio 番号が附されている。なお、左端から約 6.5cm の位置に紐穴が穿たれている。

(1) この箇所を TochSprR(B) II: 121 は [dra]vy = āksasta とするが、Schmidt (2000: 226, 231) が指摘する読みが正しい。なお、この動詞形については Malzahn (2010: 875-876) も参照。

LM20-1551-14: 32d–36a

Size w: 5.5 × h: 5.3 cm

a

- 1 {– – –} *ñana krentauna [ṣe] ///*
- 2 {– – –} *l· rsa cī ña O ///*
- 3 {– – –} *[i]ñkaum kṛa O ///*
- 4 {– – –} *lpau tāka kaṁt[w]o – ///*

b

- 1 {- - -} - ñ[e] şş[ā] bh· şe - ///
- 2 {- - -} p[o] perne O ///
- 3 {-} - tañ^{ai} pe O ///
- 4 {- -} ymo © 30 5 tau ·[e] ///

[注釈]

本断片は紐穴の左側に位置する断片であるが、folio の左端を欠いている。韻文に附された番号から、B204 との間に 1 folio の欠落が推定される。

[対応箇所]

a1 = B205a1; a2 = B205a2; a3 = B205a3; a4 = B205a4; b1 = B205a5; b2 = B205b1; b3 = B205b2; b4 = B205b3

LM20-1552-8 frg.1: 39d–40d

Size w: 6.7 × h: 5.5 cm

a

- 1 ñ[i]maṛ\ kantwāme(·) ///
- 2 krentauna © koṣ\ te ///
- 3 knātsaṃñe wiko O ///
- 4 rsa yākte per[n]enta wi ///

[注釈]

本断片は、folio 左端から紐穴までを含んでおり、裏面の左端には<263>という folio 番号が附されている。また、裏面冒頭には韻律の名称が書かれており、新しい章が裏面から始まっていることが窺えるため、本稿では扱わない。なお、ドイツ所蔵写本との比較から、LM20-1551-14 との間に 1 folio の欠落が推定される。

[対応箇所]

a2: cf. B249b1; a3: cf. B206b3–4; a4: cf. B249b2

3-2-3. ロシア所蔵写本

SI B 2943-3: 27b–31c

Size w: 10.3 × h: 6.5 cm

a

- 1 /// klyomñai akṣāsta © ·[tat]kuweṣ^[1] nañ^[2] ·[e] ///
- 2 /// kaṣ\ posa perneñ\ winaskauc\ § 20 7 perne (·)[ñ]· ///
- 3 /// kasta eñkalyñeṣṣeṃ ṣṣanmānma ///
- 4 /// [y]aikasta aknātsaṃne orkam[ñ]e ///
- 5 /// (·)e [st]wer śpalmem empreṃ (·)[e] ///

b

- 1 /// *lītkalyñenta laitka [r]o - ///*
 2 /// *sknace § yek[t]e yekte perñe - ///*
 3 /// *jarsa śaskāstame snai lyīpra ///*
 4 /// *lpar[e] 30 tañ perneṣṣe śūkesa yo ///*
 5 /// *ontsoytñemem tsalpā[r]e § pernerñeṣṣe {-} - ///*
 [注釈]

本断片は紐穴右側に位置するが、紐穴を残しておらず、右端までの欠落を推定することはできない。また、folio 番号も不明である。

- (1) 同一の詩節を示す B204b1 により、(s)[*nat*]kuweṣ の誤りと見られる。
 (2) 同一の詩節を示す B204b1 により、*tañ* の誤りと見られる。

[対応箇所]

a1 = B204b1; a2 = B204b2; a3 = B204b3; a4 = B204b4

3-3. 韻文の再建

本節では、前節で転写を与えた断片の内、B203–206 に基づいた本文に対して、未公表の旅順博物館並びにロシア所蔵断片を参考に欠落部分を補って韻文を再建している。異読が見られる場合は韻文毎に注記しているが、各写本間に本文の異読が見られない場合は、特に言及しない。比較対照が可能な部分からは、これらの写本が示す本文は基本的に同一のものと考えられ、異読は言語特徴の相違に関わる部分が殆どである。なお、以下の韻文の再建では、上記転写で欠落部分に推定した *akṣara* 数ではなく、韻律に合わせた音節数を推定している。再建を試みるのは B203–206 の全体に対応する第 22 詩節から第 40 詩節であり、これらの讃仏詩の多くが仏陀の光輝に言及していることから、仏陀の光輝が主題であると見られる。

韻律: 4×14 = 7/7

— — — — — | — — — — — |
 — — — — — | (*pāl*)*sk(o)m(eṃ)* *pern(e)rñ(e)sa* |
y· — — — — *ts* — — | — — — — — *ñ* — *t·* |
ñ· *s·* — — — — — | — — — — — *tse* //22//

[注釈]

[...] ^(b)光輝によって、思考から [...]

pernerñesa l(a)lyasta | *nette āstrā*^[1] *akalṣlyeśc* |
yamṣa-c perne — — —^[2] | — — — — — (—) (*a*)*rāñcmem* |
dīrkanakī^[3] (*kāṣṣi*) *twe* | *aknatsañe yaikasta* |
kakawu po kleśa(nma | *pe)rn(e)rñe(sa) wīnas(k)au(-c)* //23//

[注釈]

(1) Adams (2013: 363) は従来の読みに従って、*nette-sūtrā* と見做し、Skt. *nīti-sūtra*- ‘conduct-sūtra’ の借用語と解釈しているが、前節の転写で指摘したように、筆者はこの読みを採用していない。この場合、前半の *nette* は、既知のトカラ語 B の語彙としての *nete* ‘power’、或いは Skt. *nīti*- ‘conduct’ の借用語の可能性が考えられるが、いずれとも判断できない。ここでは、暫定的に後者を採用する。

(2) TochSprR(B) II: 120, fn. 6 は、*poysīññe* ‘pertaining to the Buddha’ の可能性を指摘している。

(3) Adams (2013: 346) には記載がないが、この人名については BHSD: 265 を参照。

[和訳]

^(a)あなたは、(自らの)光輝を用いて努めた。道徳(?) (或いは「力」(?)) が弟子へと導かれる。^(b)あなたの(仏)果 [...] 心から [...] した。^(c-d)師よ、あなたは(自らの)光輝によってあらゆる煩悩を滅ぼし、*Dīrghanakha* の蒙昧を追い払った。私はあなたを讃嘆します。

po pernentam šeşirku | pernerñesa snaiy-olypo |
lalaikau po pernesa | (śaultsa wa)rñai kleśanma |
pernerñeşe sumersa | täprauñentats (tä)rne(ne) |
śmasta o(m)şmem snai-wace | po - - - (wīnask)au(-c) //24//

[和訳]

^(a)この上もない光輝によって、あらゆる光輝なるものを凌ぎ、^(b)生涯煩悩を(自らの)光輝によって全て取り除いた。^(c-d)光輝より成る須弥山にある、比類のない、高みの頂きにあなたはおられた。あらゆる [...] あなたを、私は讃嘆します。

(ko)rānmasa onolme(m) | pern(e)rñ(e)mpa r(ai)t(ta)sta^[1] |
yakt(e)-p(e)rñe^[2] w(i)k(ā)-m(e) | t(a)ñ - - - - - ·śā |
- - śtasta śatkalye^[3] | pernerñeş(e)^[4] onolmets |
pontats kārtseşc alalcu^[5] | tañ pernerñe wināskau //25//
 c: B204a1 (pe)rnerñeşe onolmemts |
 d: B204a1 pontamts kartseş alālycu | tañ pernerñe wināskau ||

[注釈]

(1) TochSprR(B) II: 121, fn. 2 には *r(i)t(ta)sta* とあるが、ここでは Adams (2013: 581) の推定に従い、*ritt*- ‘be attached to’ の使役形を推定した。ただし、Adams (2013: 580) では、この箇所を *ritt*- の基本形である *rittasta* と解釈しており、いずれの解釈を採用しているのか、判然としない。

(2) Peyrot (2008: 166, 185) によれば、この形式は後期・口語のトカラ語 B の特徴とされる。

(3) *śatkalye* の書き誤りと考えられる。

(4) B204a1 によって、後続する名詞の性に一致する男性形に改めた。

(5) この表現は、Skt. *sarvasattvahiṭaiṣin*- ‘der nach dem Wohl aller Wesen trachtet’ (Hartmann 1987: 118, 48b) に相当する。

[和訳]

^(a)あなたは、何千万もの衆生たちを（自らの）光輝に結び付けた。^(b)彼らの蒙昧は消え去った。
あなたの [...] ^(c)衆生達に光輝の種をまいた。^(d)すべての者たちの幸福に倦まない者よ、私はあ
なたの光輝を讃嘆します。

k_u(s)e ksa perneñc^[1] śaiṣene | (tw)e (no) po ceṃ śarkatai |
piś cmelaṣeṃ onolmets | pernerñeś śek spelkesu |
śaulānmaṣe pitosa | ce pernerñe kraupatai |
tañ pernerñe saim yamoṣ | perneñc ka po klautkāre^[2] //26//
a: B204 a1–2 *se ksa perneñc onolmi | ceṃ twe posa śarkatai |*
b: B204 a2–3 *piś cmelaṣeṃ onolmeṃts | pernerñeś śek spelkessu |*
c: B204 a3 *śaulanmaṣe pitosa | ce pernerñe kraupātai |*
d: B204 a3–4 *tañ pernerñe saim yāmoṣ | perneñc ka po klautkāre ||*

[注釈]

- (1) B204a2 によって、*perneñca* より改めた。なお、この Pāda a の異読 B204 a1–2 は、「光輝なる
一切の衆生、あなたは彼らを完全に凌いだ」と和訳される。
(2) この Pāda d については、新疆ウイグル自治区より発見されたサンスクリット断片中の讃仏
詩にも、類似した内容が見られる¹²。

[和訳]

^(a)世界に存在する光輝なるもの、そのすべてをあなたは凌いだ。^(b)五種族の衆生達の光輝（の
獲得）のために常に弛まぬ者よ。^(c)数々の命という代償によって、あなたはこの光輝を積んだ。
^(d)あなたの光輝を避難所とした者達は、皆光輝を有するものとなった。

pernerñenta aiṣeñcai | traidhātuk po saṃsārṣṣets |
ceclu śār kauc permento^[1] | ytāri klyomñai – – –^[2] |
snātikuweṣ^[3] tañ pernesa | indrinta ślek kektseñe |
pernerñesa tsatsaikaṣ | posa pernent wināskau-c //27//
a: B204 a4 *pernerñenta aiṣeñcai | traidhātuk po saṃsārṣṣets |*
b: B204 a4–b1 *ceclu śar kauc permento | ytāri klyomñai aksasto |*
b: SI B 2943–3a1 – – – – – | – – klyomñai akṣāsta |
c: SI B 2943–3a1 *(sn)ātikuweṣ (t)añ (p)e(r)nesa | – – – – – |*
d: SI B 2943–3a2 – – – – *(tsatsai)kaṣ | posa pernent winaskau-c ||*

[注釈]

- (1) 文意から、B204b1 に基づいて *pernenta* より修正した。

¹² Schlingloff (1955: 118–119) の Nr. 1243 冒頭の詩節を参照。

- (2) 語根は同じ *āks-* ‘to tell, proclaim’であるが、B204 b1 と SI B 2943-3a1 に見える動詞形はそれぞれ現在形・過去形と異なっている。
- (3) Schmidt (1972: 65) に指摘されるように、従来の解釈では主語 *indrinta* 及び *kektseñe* は女性名詞として扱われるため、述語である過去分詞には男性形 *snātkūweṣ* ではなく、女性形 *snātkūwa* が期待される。韻文中、女性名詞として扱われる語形に男性形を対応させるのは韻律の要求に音節数を合わせることを目的とするが、ここでは男性形・女性形ともに音節数は同一で、男性形が使用される理由は不明とされてきた。しかしながら、同様の形式を伝える SI B 2943-3a1 は、この形式が妥当なものであることを裏付ける。筆者は、語根 *snātk-* ‘to suffuse, permeate, imbue’の過去分詞 *snātku* が男性形 *snātkūweṣ* であるのは、当該の過去分詞は後続する男性名詞 *perne* ‘rank, stage, glory’を修飾しており、通格形 *pernesa* によってサンスクリットの具格形に対応させているためと解釈した。

[和訳]

^(a)三界と全ての輪廻に属する者達に、光輝を授ける聖なる道を、^(b)輝ける手を高く上げて、あなたは説く。^(c)あなたの諸根と身体は、(体に) 浸透した光輝を備えている。^(d)光輝によって形作られた、最も光輝なるものであるあなたを、私は讃嘆します。

pernerñesa wyāksasta | tsārsālñenta lākṣeṣṣeṃ^[1] |
pernerñesa ekasta^[2] | *eṅkalñeṣṣeṃ ñemna po*^[3] |
pernerñeṣṣe āgatsta | śonaiṣṣe wse nekasta |
pernerñesa yaikasta | aknātsamñeṣṣ = orkamñe //28//
 a: SI B 2943-3a2 *perne(r)ñ(esa)* - - - | - - - - - - - |
 b: SI B 2943-3a3 - - - - (ai)kasta | *eṅkalñeṣṣeṃ śānmānma* |
 d: SI B 2943-3a3 - - - - yaikasta | *aknātsaṇe orkamñe* ||

[注釈]

- (1) Schmidt (1972: 82) に指摘されるように、*tsārsālñenta* は女性形として扱われるため、後続する *lākṣeṣṣeṃ* についても女性形 *lākṣeṣṣana* が期待されるが、韻律の要求する音節数に合わせるため、男性形を使用していると見られる。
- (2) TochSprR(B) II: 121, fn. 15 は *aikasta* への修正を提示しているが、Peyrot (2008: 59) に指摘されるように、後期・口語のトカラ語 B を反映している可能性もある。
- (3) Schmidt (1972: 73) に指摘されるように、*ñemna* は女性名詞として扱われるため、先行する *eṅkalñeṣṣeṃ* についても女性形 *eṅkalñeṣṣana* が期待されるが、韻律の要求する音節数に合わせるため、男性形を使用していると見られる。この点は、異読を示す SI B 2943-3a3 についても同様である。なお、SI B 2943-3a3 は、「執着に由来する桎梏」と和訳される。

[和訳]

^(a)光輝によって、あなたは煩悩の苦しみを追い払った。^(b)光輝によって、あなたは執着に由来する対象を全て認識した。^(c)光輝という薬によって、あなたは敵意の毒を絶やした。^(d)光輝によ

って、あなたは愚昧による闇を取り除いた。

pernerñesa makāntso | yātā(ṣṣatai) - - - |
 - - - - - | (·)e | śtwer śpalmeṃ empreṃ(tsñ)e(нта) |
 - - - - - | - - - - - |
 - lūkālyñenta laitka^[1] | ro - - - - - //29//

[注釈]

- (1) 両者とも初出の語形であるが、トカラ語 B の形態論から *lūkālyñenta* は *litk-* ‘to remove, eliminate’ の現在語幹、或いは接続法語幹から派生される抽象名詞 *lūkālyñe** の複数主格・斜格形¹³、また *laitka* は同一語根の三人称単数過去能動態の形式と推定される。ここでは、この二語は *figura etymologica* を形成していると見られるが、後続する <ro> と共に *laitkaro* と解釈し、三人称複数過去能動態 *laitkare* に、語頭に <o> を有する語が後続し、二語の間で *sandhi* が生じたものと見做し、*laitkar = o* とすべきかも知れない。

[和訳]

(a) 光輝によって、あなたは多くの者達の [...] を抑えた。(b) [...] 四聖諦 [...] (d) 彼は取り除いた。
 [...]

- - - - - | - - - - - sknace^[1] |
 yekte-yekte-perñe^[2] - | - - - - - |
 - jarsa^[3] śāskāsta-me^[4] | snai lyīprā - - - - |
 - - - - - | - - - - - (tsā)lpāre^[5] //30//

[注釈]

- (1) 語尾 *ce* は *-ts(ts)e* によって派生される形容詞の男性単数斜格形を示唆するが、既知の語彙からは語幹を推定できない。
- (2) Adams (2013: 545) には *yekte-perne* ‘of little worth or fortune’ とあるが、この部分の読みに問題はない。なお、前掲 Adams の辞書には記述がないが、*yekte perñe* という語形は B249a2 にも在証されることから、書き誤りではなく、このような語形が存在していたと考えられる¹⁴。ただし、*yekte* が重複される理由は不明であり、サンスクリットの *calque* かも知れない。
- (3) 語尾 *-sa* から名詞の通格形と見られるが、既知の語彙からは語幹を推定できない。
- (4) この語形は初出であるが、トカラ語 B の動詞形態論から *kāsk-* ‘to scatter/strike apart, scatter to destruction’ の使役形過去二人称単数能動態の形式に、代名詞接辞複数形を附した形式と推定される。なお、動詞に付された代名詞接辞は複数形では人称を区別しないため、一人称或い

¹³ 当該語根の現在語幹及び接続法語幹は在証されていないため、語幹を確定できない。なお、対応するトカラ語 A の語根は接続法が第五類に属するが、現在語幹は在証されていない。

¹⁴ ロシア所蔵トカラ語 B 断片 SI 2994-8 (= SI B 113) (a)3 には、第 25 詩節にも在証される *y[a]kte pe(r)[ñe]* という語形も見られる。

は二人称複数を指す可能性もある。

- (5) 暫定的な再建に過ぎず、*kālp-* ‘to obtain’ の三人称単数過去中動態の *kālpāre* が再建される可能性もある。

[和訳]

[...] ^(b)愚昧 [...] ^(c)によって、余すところなく、あなたは彼らの [...] を粉々に打ち砕いた。

^(d)[...] 彼らは救われた(或いは「獲得した」)。

tāñ perneṣṣe śūkesa | yo - - - - - |
- - - - - | ontsoyñmem tsālpāre |
pernerñeṣṣe - - - | - - - - - |
- - - - - | - - - - - //31//

[和訳]

^(a)あなたの光輝の甘露によって [...] ^(b)彼らは食欲から救われた。 ^(c)光輝の [...]

- - - - - | - - - - - |
- - - - - | - - - - - |
- - - - - | - - - - - ñ s· s· (·)n· |
poyśiñana krentauna | ṣek ñi taśye(m) arāñca //32//

[和訳]

[...] ^(d)仏陀の善行が、常に私の心を捉えておりますように。

- - - - - | - - - - - śaktālyi^[1] |
papalarsa ci ñakta | nervvaṃn oko kālale |
krent kartse^[2] - - - - | - - - ṣ· śaktalye |
iṇauṃ kāstwer katnau ñaś | ñemek takoy-ñ aśle ┘^[3] //33//

b: LM20-1551-14a2 (*papā*)l(r)sa cī ña(kta) | - - - - - |

d: LM20-1551-14a3 iṇkaṃ kā(stwer) - - - | - - - - - ||

[注釈]

- (1) TochSprR(B) II: 122, fn. 4 は、この箇所に対して *śaktālye* の書き誤りの可能性を指摘している。
 (2) この箇所には *kartse* ‘good’ の男性単数斜格形の *krent* と語幹の *kartse* が見られるが、後続部分を欠いており、文脈を把握できない。
 (3) TochSprR(B) II: 122, fn. 7 は、この箇所に対して *ṣek* ‘always’ の可能性を指摘している。

[和訳]

^(a)[...] 種 [...] ^(b)尊い方よ、あなたを称賛することによって、(その) 結果として涅槃が齎され得る。^(c-d)良い [...] 私は昼夜 [...] 種をまく。(常に) 私に (その) 実りが齎されますように。

— — — — snai-yparwe | kălpau taka^[1] kāmntwo nī |
 pernerñempa śpalmeñ ce | ma nai nta ·o — — — |
 — — l(·)auwtā wely(ñ)esa | yam(t a)bhīšek^[2] perneše |
 laikaḷy(ñ)esa — k(·)e t(·) | ś(·) — — — — — //34//
 a: LM20-1551-14a4 — — — — — — — | (kă)lpau tāka kaṃtwo — |
 c: LM20-1551-14b1 — — — — — — — | — — ñeṣṣā = bh(ī)še(k) — |

[注釈]

- (1) LM20-1551-14a4 から、taka ‘then, certainly’ではなく、nes- ‘to be’の三人称単数過去能動態 tāka の古代期トカラ語 B の形式と解釈される。
 (2) 転写に対する注釈で指摘したように、この箇所は yam(w a)bhīšek と読むことができるかも知れない。この場合、yamw は yām- ‘to do’の過去分詞男性単数主格形 yāmu の古代期トカラ語 B の sandhi 形式と解釈される。

[和訳]

- ^(a)今までにない [...] 言葉を私は得た。^(b)この素晴らしい光輝と共に [...] 決して [...] ない。
^(c)[...] 言葉によって、あなたは光輝による灌頂を行うだろう（或いは「光輝による灌頂が、行われた」）。^(d)[...] 洗い落とすことによって [...]

— — — — — (·)s· | p(a)l(a)m(ai)-c p(o) p(er)n(e)nt(am) |
 ś(e)ś(ir)ku sn(ai olyapo) | — — — — — — — |
 — — — rme tañ perne | kaskoytar^[1] nī yke-postam |
 tañ perneṣai skiyaṇe | ñaś ra — — — — ymo^[2] //35//
 a: LM20-1551-14b2 — — — — — — — | po perne — — — — — |

[注釈]

- (1) TochSprR(B) II: 122, fn. 13 は、kaskoytār へと修正している。
 (2) 一人称単数願望法能動態の動詞語尾に、bewegliche -o が付された形式と解釈される。

[和訳]

- ^(a)[...] あらゆる光輝なものを [...] 私はあなたを讃嘆します。^(b)この上もない [...] を凌いだ。
^(c)あなたの光輝が [...] 私の [...] を、すぐに粉々にしますように。^(d)あなたの光輝の影の下で、私が [...] しますように。

taupe kraupe še ysomo | pernerñeše tatakau |
 pernerñeše yatalyñe | — — — — — — — |
 (cek) yaikorne klyeñca nīs | somotkāñe šek takoymā^[1] |
 cau pernerñe — — — — — — — ntrā //36//

[注釈]

- (1) TochSprR(B) II: 122, fn. 16 に指摘されるように、この形式では一音節長いため、virāma が付

された *takoym* が期待される。

[和訳]

^(a)あなたは、光輝の、完全にして、唯一の結晶であり、鉾脈になった。^(b)光輝の力 [...] ^(c)常
に変わらず、私は（この）仰せに従っていたい。^(d)この光輝 [...]

pernerñesa še ysomo | k_uce ñaś ñakta pal(am)ai(-c)^[1] |
 - - - - - (tā)ko_i | oko nemcek wakñse |
akalkātse - - - | - - - - - yñ· - |
 - - - - - (yā)nmoy mā^[2] | ente skeyi kesentrā //37//

[注釈]

- (1) 和訳では、TochSprR(B) II: 122, fn. 18 で推定された *pal(am)ai(c)*を採用した。
 (2) 和訳では、TochSprR(B) II: 123, fn. 2 で推定された *(yā)nmoy mā* を採用した。

[和訳]

^(a)尊い方よ。私は、光輝を備えた、唯一にして、完全なるあなたを称賛したので、^(b)[...] 必
ずや素晴らしい結果を得られますように。^(c)希望の [...] ^(d)もし数々の努力が消え去るならば、
私は [...] に達しないだろう(?)。

- - - - - | (ka)lpanma a(saṃkhyainta) |
(po)ysñ = ikeś lalyyasta | pernerñenta kraupāi(ai) |
yātāṣṣatai maim palsko | - - - - wakñce |
po cmelaṣṣe pernerñe | yarke tañksa wī(nāskau-c) //38//

[和訳]

^(a)数えきれない劫の間 [...] ^(b)あなたは仏陀の位をめざして努力し、数々の光輝を積んできた。
^(c)あなたは思考を抑制した。[...] 素晴らしい [...] ^(d)あなたの、全ての生涯による光輝を、敬意
と愛情を以て私は讃嘆します。

- - - - - | - - - - - |
 - - *nmasa ñak(t)etsä | palau(nasa) - - - |*
 - - - - - | - - - - - |
 - (·)m· (·)n· ·s· - - - | - - - - - - - //39//
 d: LM20-1552-8 frg.1a1 ñimar kāntwāme(m) ///

[和訳]

^(b)神々の [...] によって、称賛によって [...] ^(d)舌から [...] 私が [...] でありますように¹⁵。

¹⁵ ここでは、LM20-1552-8 frg.1a1 の示す本文に従って和訳しているが、韻文中の正確な位置は不明なため、再
建した韻文には入れていない。

- - - - - | - - - - *pārsanta*^[1] |
ṣem = akṣarsa ne - - -^[2] | - - - - (*winās*)*k(au)-c* |
 (*k*)*r(en)t(auna)* - - - - | *kliñi-ñ walke spartatsi* |
t - - - - *·ts pi* | *akna(tsañe) wikoytār-ñ* //40//
 a: B249 frg.a.a2-3 *k_uce ñiś (ñakta pā)lamai* | *rekaunasa permenta* |
 b: B249 frg.a.a3-b1 *ṣem = akṣarsa postaññe* | *nenku nā(ki kre)ntauna* |
 b: LM20-1552-8 frg.1a2 *krentauna* |
 c: B249 frg.a.b1 *kos te postām saṃsārne* | *kliñi-ñ walk(e) spārtatsi* |
 c: LM20-1552-8 frg.1a2 *kos te* ///
 d: B249 frg.a.b1-2 *tañ pern(e tot tākoy) ñi* | *yekte-perñe wikoytār-ñ*
 b/d: LM20-1552-8 frg.1a4: (*ṣem = akṣa*)*rsa yākte-permenta wi(koytār-ñ)* ///
 d: LM20-1552-8 frg.1a3: (*a*)*knātsaṃñe wiko(ytār-ñ)* ||

[注釈]

TochSprR(B) II: 123, fn. 8 は、この詩節が B249 の第 10 詩節と同一のものとして欠落部分を推定しているが、B206 の小断片の裏面の転写からは完全に同一の内容とは言えず、B249 frg.a.b2 及び LM20-1552-8 frg.1a4 から窺えるように、一部に相違があった可能性を否定できないため、ここでは B249 に基づいて、欠落部分を全て補うことは控えた。

なお、異読として掲げた B249 frg.a.a2-b2 は、「^(a-b) (尊い方よ、) 私は言葉で、それから一つの文字で (あなたの) 光輝を称賛したので、善行が過ちを滅ぼした。^(c)今後、私が輪廻に長い間留まらなければならないならば、^(d)あなたの光輝が私に生じ、私の愚昧がなくなりますように」と解釈され得る。ここでは Pāda b 後半 *nenku nā(ki kre)ntauna* を先行する従属節に対する主節と解釈したが、この場合主語の *krentauna* は女性名詞として扱われるため、先行する過去分詞 *nenku* についても女性形 *nenk(u)wa* が期待される。ただし、*nenkuwa* では一音節長くなる。

(1) Adams (2013: 384) はこの語形を *parso** ‘letter’ の複数主格・斜格形と見做しているが、この文脈からは裏付けられない。

(2) この箇所には *nāk-* ‘to destroy’ の二人称単数過去能動態の *nekasta*、或いは同一語根の過去分詞男性単数主格形の *neneku* が推定される。

[和訳]

[...] ^(b)一つの文字で、(あなたは) [...] を滅ぼした。[...] 私はあなたを讃嘆します。^(c)善行 [...] 私は長い間 [...] 留まらなければならないだろう。^(d)[...] 私の愚昧がなくなりますように。

4. 写本 B の校訂

4-1. 写本 B の各写本が反映する文字特徴・言語特徴・異読について

表 2 に示したように、写本 B の校訂に対しても、ドイツ・イギリス・旅順所蔵の三つの異本が利用可能である。これらの異本が示す文字特徴・言語特徴・異読については、荻原 (2019: 100–105) で比較対照研究を行った際、重要な点について指摘した。ここでは、重複を避けるため、

文字特徴・言語特徴及び異読について主要な点を指摘するにとどめる。

4-1-1. 文字特徴

ドイツ所蔵写本 B71–74, 76: Standard

イギリス所蔵写本 B75 (= IOL Toch 89): Standard

旅順所蔵写本: Standard

4-1-2. 言語特徴

ドイツ所蔵写本: 概ね古典期に属するが、古代期の特徴も散見¹⁶

イギリス所蔵写本: 古典期に属するが、後期・口語の特徴も散見

旅順所蔵写本: 概ね古典期に属するが、後期・口語の特徴も散見¹⁷

B73b6: *kātsāṣṣe*

B75b4: *katsāṣṣe*

B74a2: *yarpontants*

LM20-1552-9a4: *yā(r)pontants)*

B73b3: *śmoñña*

B75a4: *śmo(ñña)*

B75b3: *asāmśnesa*

LM20-1552-11a5: *asāñnesa*

B74a4: *tskertkane*

LM20-1552-9b2: *tskerkkane*

B74a5: *tskertkanempa*

LM20-1552-9b3: *tskerkkanem(pa)*

4-1-3. 異読

I. 語順の相違

B73b3: *po aiśiññeṣeṃ | pelaiknentaṃts | lwāke śmoñña aiśamñientse | krentaunaṣṣe samūdrā*

LM20-1552-11b2: */// ntaṃts | kr[e]nt[au]naṣṣe samūdtār*

II. 語形の相違

(1) B73a1–2: *|(sā)ntine ramt kauṃ | tapāki ramt ñ(ä)kcy(ai) lak_utsai | ñākcye rātreṃ aṃśūksa*

LM20-1552-12 + LM20-1551-1 frg.2b1-2: */// (sā)nt(ine) ra(m)t (kauṃ | ta)pāky(e) ra ñākcyā*

laktsa | ñä(k)cy(e) rā(tre)m a(m)ś(ū)ks(a)

(2) B76b4: *walo lkātūr cakravārt*

LM20-1551-3a1: *walo lkātūr-ne cakravā(rt)*

III. sandhi の有無及び名詞の文法性の相違

(1) B74b4: *kauñākte laktse | āntsene tañ śwālyai lkātūr*

LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1a5: *kauñāk(t)e laktsy = āntsesa tañ śwālyai lkātūr-ś*

(2) B74b6: *----- oñkolma tañ | lkātār saiwai ckāckaine*

LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1b2: *pr. -- t oñkolmo | lkātār s(aiwai) ckā(c)k(aine)*

欠落が多く、本文を確定できないが、異読が見られる第 21 詩節 Pāda d 冒頭を除いて、これ

¹⁶ Peyrot (2008: 219, 229) を参照。なお、これらの断片の言語特徴の内、母音<a><ā><ä>の使い分けは Thomas (1993: 169, fn. 26) が言及している。ただし、以下に示すように、ドイツ所蔵写本 B73, 74 には母音<o>/<au>に関する誤りが散見され、これらが Peyrot (2008: 53–54) に指摘される二重母音の単母音化と解釈されるならば、後期・口語のトカラ語 B の要素の混入と解釈され得る。

¹⁷ ここで例として挙げた言語特徴については、Peyrot (2008: 33–41, 70–71) を参照。なお、Peyrot (2008) には<tk>-<kk>の音変化に関する言及は見られないが、後期・口語のトカラ語 B の特徴と考えられる。

らの異読は内容の本質的な部分に関わるものではなく、各写本が反映するトカラ語 B の年代的相違と解釈されるものが殆どである。ただし、sandhi の有無については、韻律は音節数の削減を要求していないにも拘わらず、sandhi が使用されており、その理由を明らかにし得ない。また、インド語原典を比定できていないため、名詞の文法性の相違の理由も不明であるが、B74 には母音の誤りが他にも見られるため、B74b6 に在証される *oñkolma* については最終音節の母音<o>を書き落した可能性もある。

4-2. 写本 B の転写

本節では、再建に利用する断片全点の転写を与える。B71-76 については、TochSprR(B) II: 11-16 で転写が出版されているが、筆者の調査によって既公表の読みを幾分改善することができた。注釈中で、これらの改善部分に言及する。なお、以下の転写で欠落部分に推定した *akṣara* 数は、同一写本に属する断片に基づいた概算であり、確定的なものではない。また、韻文を復元できない部分を含むドイツ所蔵写本 B71, 72 及び旅順所蔵写本 LM20-1551-1 fig.1, LM20-1552-12 + LM20-1551-1 fig.2a1-5 及び LM20-1551-3a4-b5 については、注釈で推定される語形を指摘するにとどめる。

4-2-1. ドイツ所蔵写本

B71: 1-5

Size w: 18.2 × h: 7.5 cm

- 1 /// (·)[s]w· su (·)[c]^[1] (·)[m]· {— — — —} (·)[m]· — ·[ru] (·)t· — — ·[s]· —
—^[2] ///
 - 2 /// — ce ·[wa]rñai^[3] kca [k]lāwātsi pūdñāktāññeṣṣe [au]rce akāśne [p]ly[us]ts[i
w]e ///
 - 3 /// ñ^ā waste yā[mo]rmem [m]antak weñau ṣaṇ aṇmantse kartseś^ā ///
 - 4 /// [ṣṣ]es = au[s]mem [u]ṣ[n]īr mahūr [p]a ·ā [ku]^[4] © poyśñina s[w]aṇcaim kās·
///
 - 5 /// (·)[ā]s[s]e^[5] tañ^ā palle[nta]ṣṣe [m]eñe ram no^[6] l[k]ātsy ontsoypte^[7] lare [yo]^[8] ///
 - 6 /// — ·e ly[u] — [m]o^[9] yaipu ram[ṭ] m[e]nne u]rṇa[s]·e tañ^ā la [k](·)^[10] ///
- [注釈]

当該断片は folio の紐穴右側に相当しているが、紐穴部分及び folio の右端は残っていない。裏面には文字が一切書かれていないことから、二度漉きという方法によって作製された紙を利用していると考えられる。

- (1) 或いは(·)/v·かも知れない。TochSprR(B) II: 11 は、この行の後半の転写を与えていない。
- (2) この *akṣara* は、<ra><ka>或いは基字の下に附される付加母音<u>かも知れない。
- (3) TochSprR(B) II: 11 は *ce(k) [wa]rñai* と推定している。
- (4) TochSprR(B) II: 11, fn. 4 は *pa(py)āku* とするが、Schmidt (2000: 226) は *paprāku* と読んでいる。
- (5) TochSprR(B) II: 11, fn. 5 は、(*ṣarwān*)āṣṣe と推定している。

- (6) この部分は「あなたの顔の [...] は満月の如く」と和訳され、次節で述べる仏陀の身体的特徴である八十随好の 47 番目として言及される Bimbapratibimbadarśanavadanaḥ (面満淨如満月) と関連している。
- (7) この部分は「見ていて厭きない」と和訳され、八十随好の 39 番目 Samantaprāsādikāḥ (觀無厭足) との関連を指摘できるかも知れない。
- (8) Schmidt (2000: 226) は、*lare-yo(k)*としている。
- (9) TochSprR(B) II: 12 は、*ly[u](ke)[m]o* と推定している。
- (10) TochSprR(B) II: 12, fn. 2 は *lak(śām)*を、また先行部分には *[u]rṇaśe* を推定している。

B72: 1–5

Size w: 7.9 × h: 6.8 cm

- 1 /// – [r]· (·)·t – (·)[ñ]· (·)[ts]· – {– –} – ///^[1]
- 2 /// [p]luṣṭeṃ^[2] lare yok karuntsa ṣpa k ///
- 3 /// (·)[e m]aikne^[3] © awāskacca ramṭ ysāṣ[śa] ///
- 4 /// t yaikoṣ y[ai]toṣ krentauna<ts>^[4] śīla ///
- 5 /// ne ysāṣṣi maṃtañ^a [5] klauts[n]e ///
- 6 /// ntaṃ {–} [o n]· [ñ](·)e ·i – ·e ·[e] ///

[注釈]

B71 と同様に当該断片は folio の紐穴右側に相当しているが、紐穴部分及び folio の右端は残っていない。裏面には文字が一切書かれていないことから、二度漉きによって作製された紙を利用していると考えられる。

- (1) TochSprR(B) II: 12 は、この部分の転写を与えていない。
- (2) TochSprR(B) II: 12, fn. 3 は、*pluṣṭeṃ* と見做す可能性を指摘している。
- (3) TochSprR(B) II: 12 は、*(ś)emaikne* としている。
- (4) 語末の<ts>は、<na>の下に追記されている。また、TochSprR(B) II: 12 は後続する *śīla* との間に punctuation の<§>を記しているが、実際には書かれていない。
- (5) TochSprR(B) II: 12, fn. 5 は、*maṃt tañ^a* と見做すべきとしている。

B73: 11a–16a

Size w: 36.0 × h: 7.8 cm¹⁸

a

- 1 10 sklokacceṃ śāmnamtṣ [s]kl· ksa [wi] {ca. 22 akṣaras} – ntine ramṭ kau[m] tapāki ramṭ ñ· [kcy]·
- 2 lak_{tsai} ñākcyē ratreṃ aṃśūksa © eṃṣke {ca. 23 akṣaras} [ly]· lykormēṃ kantwa

¹⁸ この断片は三つの断片から成っているが、B74 との比較から folio 中の位置を確定でき、それに従って全体の大きさを推定した。

snai skloḥ maskemtra ai-

3 śmauñ^[1] śāmnā te maṃt wesem watka O {ca. 21 akṣaras} śaṇwanmamem
śarwānāṣṣe yerpemem

4 tseñān = arkwinā meñ yokaññana O {ca. 21 akṣaras} ñākte ṣeḥ tañ sumeṣṣana
swañcai-

5 ntsa ramṭ yaitu tākauḥ^[2] kaumñākte © tus· {ca. 23 akṣaras} 10 2 tpariyane
tañki wartsane āṃ-

6 tsne wartsa wlaś·a l·ā [k]_(\) pratsā ·o – – {ca. 23 akṣaras} [ṣñ]· ntse waṭ
maṃt [k]ektseñe kauc [p]āke

b

1 ñ· [k]cy· padūmne ywārcka ke[s]· {- -} kkarwisa mittarwisa tsetskañōṣ tañ
ālīn· © y[ail]uwa tañki pqrkr· n· pr· r· ññn· p· m· {- - - -} (·)[k]· ñc^d
śc[i] r· nts· [r]· [m]ṭ_(\)

2 lyelykuwa 10 3 kātso mā {- -} mā ra rukausa pw asāñcnesa wawlāwaua
pratsākaisa yaitusa ṣ wlaśka lyakwañña ṣhyaṣṣ· prakary[a] katre wartse kele

3 ywārśka mīṣe kare pe {- - -} O po aiśiññeṣem pelaiknentamṭṣ lwāke
ścmonñā aiśamñentse krentaunaṣṣe samūdra © dhyananmaṣṣana swañcai-

4 nts = enenmem lyelyūkusa sū {-} O kāmṭṣi kerci ramṭ laktseci 10 4 palskoṣṣi
śpālmem ckenta piś reskem raddhinmaṣṣi spantaitśneṣṣi nāgi yāṣi

5 gandhārvi © ompalskoñeṣ[s]i {- - -} w[ā]rttonta pelaikneṣṣi preñki aurcci
krentaunaṣṣi naumyenta © mārgañḥntaṣṣe war kārūnāṣṣe cintāmañi kwāntsaññeṣ[s]·

6 s[u]mer rīye nervāmṣṣa © {- - -} kātsāṣṣe samudtar saswa katkarñesa
krentaunasa samudtarnta ṣeṣṣirku © 10 5 kañcān isāṣṣai tapākine ram·

[注釈]

当該 folio は複数の断片から再構成されたものであり、特に表面の欠落が激しい。裏面には文字が一切書かれていない断片があることから、二度漉きによって作製された紙を利用していると考えられる。なお、本断片の左端には folio 番号の<3>が記されており、左端から約 10.0cm の位置に紐穴が穿たれている。

(1) TochSprR(B) II: 12, fn. 8 は、aiśmonñへの修正を指摘している。

(2) TochSprR(B) II: 13, fn. 1 は、tākoyへの修正を指摘している。

B74: 16a–21a

Size w: 26.3 × h: 7.9 cm

a

1 {- - - - -} lṣ[e] meñne ramṭ © ysā y[o]kañña[n]^[1]
rāja - {- - - - -} ·w· ñcai k[o]^[2] {-} {-} ñ^d ścirye ram no lyukemo

© [ś]· {-} [y]· {- (-)}

- 2 {- - - - - - - - - -} - *sta yase kwīpe alyeṇkaṃts\ ompalskoṇesa*
wa ·ñ· y[a]rpontants oko wsāsta yonmasta cem śpālmem lakṣām go[ś]· g· t\ 10
 -
- 3 {- - - - - - - - - -} O *so[mo] somo klokaśne ltū wlaṃške yok tañ^d*
kechtsentsa © māka tañwañe lkātsi celentṛa kaunaṃtse ram\ swa -
- 4 {- - - - - - - - - -} O *airawantaṃtse oṇkolmaits^[3] lānte sayi^[4] ram*
śuñc\ tskertkane aineyentse lwāntse ram\ § lyāk sauke tañki ·[lai]^[5]
- 5 {- - - - - - - - - -} *[kt]entse tskertkanempa tasaitar^[6] 10 7 ṣhyaṣṣi*
snai rūki sprāne sesīnaus\ lalaṃskene aurt[s]i pauke^[7] paine wlaṃśli snay au
- 6 {- - - - - - - - - -} *ts· praroñ\ māka lalaṃskane^[8] lyely[ū]kwa ṣaṇ*
mekwasa wawākausai ram(·)\ - - {-} - [n]· cakkarwisa mittarwisa -
 b
- 1 {- - - - - - - - - -} *[t]oṣ^[9] bramñ[ā]kte wa[r]ñ[ai] po śaiṣṣe[n]ts·*
wewīnaṣṣoṣ\ maitrāk\ warñai kaṣṣi - ts\ {- - -} - nāṣṣe tañ^d\ yerp· n· -
 -
- 2 {- - - - - - - - - -} *lskoṇe ṣmemane © kṣemañkar ṇemo dīpañkar*
poyṣi prabhañkare indradhvaje dhrtirāṣṭre hitaiṣi © śrīsamḥave [u]
- 3 {- - - - - - - - - -} O *rthadarsi sujāte ślēk\ sunetre © kāśyapsa*
warñai poyṣintasa tañ^d\ yaitwa ersna tapākye ra ysāṣ[ṣa]
- 4 {- - - - - - - - - -} O *[k]arṣke kauñākte laktse āntsene tañ^d\ śwālyai*
lkātar\ yaitu yaltse swaṇcaintsa © saiwai āntsesa yaitu
- 5 {- - - - - - - - - -} *r ṣlentse tsañkar ram\ © śwālyai*
ṃarkwatsa^[10] ok pokai viṣṇ· saiwaisa no mahiṣvare ṃarkwactsa tañ^d\ kau_urṣa
pkai © śwāl[y]ai
- 6 {- - - - - - - - - -} *oṇkolma tañ\ lkātar\ saiwai c[k]āckaine ©*
[20] {- -} ·(·)er korne ca ·[r]· {- -} ña pratsākaine śrīvās[s](·)e {-} na
 (-)

[注釈]

本断片は folio の紐穴右側以降のみを残しているため、folio 番号の記載を欠いているが、韻文に附された番号から、folio 番号は<4>であったと推定される。

(1) この語の<ñña>は、<ññe>から付加母音<e>を抹消して修正されている。

(2) 或いは<kau>かも知れない。なお、TochSprR(B) II: 13, fn. 19 は *ko(yne ta)ñ* を推定するが、残存部分からは、この推定は支持されない。

(3) TochSprR(B) II: 14, fn. 5 は、*oṇkolmaṃts* の書き誤りの可能性を指摘している。

(4) TochSprR(B) II: 14, fn. 6 は、*seyi* への修正を指摘している。

- (5) Schmidt (2000: 226) に従い、(w)[lai](śke)が推定される。
 (6) TochSprR(B) II: 14, fn. 9 は *tasetar* への修正を指摘するが、次節第 17 詩節の解釈を参照。
 (7) TochSprR(B) II: 14, fn. 10 は、*sesīnoṣ lalaṃṣkane aurt[s]i pokai* への修正を指摘している。
 (8) TochSprR(B) II: 14, fn. 12 は、*lalaṃṣkana* への修正を指摘している。
 (9) 或いは、[n]oṣ の可能性もある。
 (10) この箇所は、*markwa(c)tsa* の書き誤りと考えられる。

B76: 21b–26a

Size w: 12.5 × h: 7.9 cm

a

- 1 {— — — — — — — — — — — — — — — —} [v]āṣaṣṣi ña ·[t]· l[k]āntarc^ā [1] k[au]ñī
ram no ompalskoñe ṣme {ca. 17 akṣaras}
 2 {— — — — — — — — — — — — — — — —} — sa sudarṣaṃ ñ[ā]kcyai rine śpālmeṃ
vaijayanto stāñne — {ca. 17 akṣaras}
 3 {— — — — — — — — — — — — — — — —} O ndaṃ warñai warttonta © cañkene ślentse
śt[w]er lāñ(·) {ca. 19 akṣaras}
 4 {— — — — — — — — — — — — — — — —} O kṣāttarnta brahasvati śuk[kā]r [wa r]·ai {ca.
 22 akṣaras}
 5 {— — — — — — — — — — — — — — — —} [tā]rc samudtar ysāṣṣe [ñ]· {ca.
 25 akṣaras}
 6 {— — — — — — — — — — — — — — — —} [ma]ñinta naumyenta s·ai ·e {ca.
 25 akṣaras}

b

- 1 {— — — — — — — — — — — — — — — —} [2] tañ^ā enes[t]ai 20 [3] ·w· {ca.
 24 akṣaras}
 2 {— — — — — — — — — — — — — — — —} [l]· cañke rāhu baḍi vema {ca. 24
 akṣaras}
 3 {— — — — — — — — — — — — — — — —} O parnesa^[3] no lkāntra tañ^ā lw· {ca. 23 akṣaras}
 4 {— — — — — — — — — — — — — — — —} O kār śpālmeṃ walo lkātar cakravār © —
 — {ca. 18 akṣaras}
 5 {— — — — — — — — — — — — — — — —} — swa lkāntarc^ā [4] kektsenne taryāka wī
lakṣānānta mai {ca. 18 akṣaras}
 6 {— — — — — — — — — — — — — — — —} ṣe lyūkesa — 5 bramñāktem yaltse
ylaiñāktem ya[l]·[e]^[5] {ca. 18 akṣaras}

[注釈]

本断片も紐穴右側のみを残しているが、folio の右端も大きく欠落している。本断片右側の欠

落部分に推定される akṣara 数は、同一写本に属する B73 及び B74 に基づいており、TochSprR(B) II: 16–17 で推定されている音節数とは一致していない。

- (1) TochSprR(B) II: 15, fn. 13 の指摘に従い、*l[k]āntarc^ā* に修正すべきである。
- (2) ここには別の小断片が付着しており、解読できない。
- (3) TochSprR(B) II: 16, fn. 6 の指摘に従い、*ṣarnesa* に修正すべきである。
- (4) TochSprR(B) II: 16, fn. 9 の指摘に従い、*lkāntarc^ā* に修正すべきである。
- (5) TochSprR(B) II: 16 に従い、*ya[l](ts)[e]* が推定される。

4-2-2. イギリス所蔵写本

IOL Toch 89 (= B75): 13a–16b

Size w: 18.5 × h: 7.2 cm

a

- 1 */// k[o] kañcām ysāṣṣa wā (·)ty· ram^ā \ © ysā[ṣ]ṣe ram^ā \ karse mlyurweñc^ā \ pokaine ṣeckem - \ ///*
- 2 */// [y]w[ā]rcka kesārne cakkarwisa mittarwisa tsetṣkaññoṣ tañ^ā \ aline © yailu - ///*
- 3 */// ḥyūkwa 10 3 kātso mā tparya mā ra ·[u]kausa pw asāṃśnesa wawlāwaua - ///*
- 4 */// mīṣe kare pernettse © po aiṣimñeṣṣem pelaiknentamtso lwāke [śm]om \ ///*

b

- 1 */// - sa sūryakāmtṣi kercci ram no laktsecci 10 4 pālskoṣṣi śpālme [cke] ///*
 - 2 */// [ñ]ñ· ṣṣi snai keś wārttonta pelaikneṣṣi [p]renki aurcci krentaunaṣṣi naumye ///*
 - 3 */// r(\) rīye nervāṣṣa © maṃt tañ^ā \ katsāṣṣe samudīār \ saswa kṭkarñesa kre ///*
 - 4 */// sp[e]rtte tākoy^ā \ indranīlṣe meñ[n]e ram^ā \ © ysā yokamñana rājawat yo ///*
- [注釈]

本断片も紐穴右側のみを残しているが、folio の右端も欠落している。同一の写本に属する他の断片が知られていないため、全体の大きさは不明である。

[対応箇所]

a1 = B73a6; a2 = B73b1; a3 = B73b2; a4 = B73b3; b1 = B73b4; b2 = B73b5; b3 = B73b6; b4 = B74a1

4-2-3. 旅順博物館所蔵写本

LM20-1551-1 frg.1: 6c/d–9c

Size w: 8.8 × h: 7.8 cm

a

- 1 *- ·[w]· ·[m]· - - - - ///*
- 2 *rntse © 6^[1] sānti ·[e]^[2] ///*
- 3 *ram^ā \ ṣ korom^[3] rutk[ā] O ///*
- 4 *tṣaṇkarwa ram no śtwer aṇk[a] - ///*

5 *yṇamṭs*^a \ *ye ·e – ·o [s]·* ///

b

1 *memīskusa [ta]ñ\ k[em ys]·* ///

2 *mna soyäṣṣam* © *[ik]·*^[4] *ka –* ///

3 *[bha]vāggār\ wārñai* O ///

4 *mñāktamñaisa*^[5] *mā – –* ///

5 *lme kau[r]ṣats*^[6] *[rā] ·(·)[e] ·(·)[ā] sa [s]e* ///

[注釈]

本断片は folio 左端から紐穴までを残しており、左端には folio 番号の<3>が見える。

(1) 第6詩節末尾に相当する。

(2) この箇所は *sānti(n)[e]* と推定される。

(3) トカラ語 B には *koro** ‘camel(?)’ の派生形容詞として *koromñe* が知られており、この形容詞は **korauññe* に由来し、**korom* を語幹としないとされている。しかし、*koro** と同じ変化を示す *okso* ‘cow’ や *yolo* ‘evil’ から派生した形容詞は *oksaiññe* 及び *yolaiññe* であり、接尾辞 *-ññe* に先行する形式に相違が見られる。この箇所が *koromñe* の書き誤りでないならば、従来知られている *koromñe* は *koro** ではなく、*korom* からの派生形の可能性を指摘できるが、本断片は文脈を欠いており、*korom* の語義を確定できない。

(4) この箇所は、*[ik](e)* と推定される。

(5) この箇所は、*(bra)mñāktamñaisa* 或いは *(kau)mñāktamñaisa* と推定される。

(6) Adams (2013: 222–223) にあるように、*kauurṣe** ‘bull’ の複数属格の形式としては *kaurṣāmṭs* が知られているが、本断片の形式とは異なっている。

LM20-1552-12 + LM20-1551-1 frg.2: 9c–12d

Size w: 14.3 × h: 7.7 cm + w: 13.0 × h: 7.8 cm

a

1 (–) *·[m]w· – – – āktik· [m]ā klutkaṣṣa(·)* ©^[1] *– – – {– – – – –}* –
– *·[e] – – [r]w· starm[e]*^[2] *kātkaṣṭarme p· lw[ā]*^[3]

2 – – – *ly[e] – (·)[k]· y[k]o ṣ\ ś[ā]mpaṣ·em*^[4] *– – – {– – – – –}*
·[yu] ṣa [c]c· – – ṣṣanme mrau[s]kaṣṭarme^[5] *makā ykne*

3 – – – *k[o] – – nū- O wā[s]ṣ[i] – – – {– – – – –}* – – –
[m]· – pelaikneṣṣe swesempa ©^[6] *palyca*

4 – – – – – *ikaṣṭra ka – – – – – {– – – – –}* –
[yerpe] – – ·[s]· ©^[7] *śāripitre śle metrāksa*

5 {– – – – –} *[s](·)[ai s](·)· l(·)· [n](·)i pāṣam]*^[8] *– [w]· {– – – – –}*
– – – – ^[9] *→} kacce(·) [śāmnamṭs] skloksa wīkassi kaṁtwāṣṣe*

b

- 1 {- - - - -} - - - ·[t̪a s̪s]· wimānm[e](·) {- - - - -} (-) [nt̪]· ra ·[t̪] - - pāky· ra ñākya laktsa ñā
- 2 cy^[10] r̪a ·[m̪ a](·) [s̪]· [ks]· © em[s̪ke] ta[k̪a]r̪s̪[k̪e] l[k̪ā]n̪tar̪[̺] - {- - - - -} - r̪a[t̪rem̪] - we [p̪ai] ·e ram̪[̺] © lyelykormem̪ kantwa
- 3 [sn̪]· [s̪]klok̪[̺] m̪askentr̪a O - ·[m̪]· ñ̺ s̺ mna te {- - - - -} [sk̪]· wat[k̪a]l̺ poy̺si k̪aṣṣ̺ī se 11 āśme[m̪] eśnemem̪
- 4 ur̪namem̪ m̪antak̪[̺] kantw· ra[no] ṣ̺aṅkwanma[me](·) [s̺grw]· {- - - - -} rp[e]mem̪ ©^[11] yai[tu] kektseñ[s̪]e kauñākta^[12] ṣ̺ek̺ tañ̺
- 5 [su]mer[s̺san]· ·w· ñ̺caim̺sa ra yaitu t̪[ā]k̪[o]y̺^ā kauṃñā {- - - - -} - ñ̺akti śuddhavāṣ̺[̺] wār̺ñai śār̺iputrem̪ me ·(·)[ā] k[s̪a]

[注釈]

LM20-1552-12 は folio の左端から紐穴右側までを残し、LM20-1551-1 fig.2 は当該 folio の右端に当たる。両断片の間には最大約 7.5cm・最小約 4.0cm の欠落部分があるが、それぞれ左右の端を残している。前者の左端には、folio 番号の<4>が記されている。

- (1) 第 9 詩節 Pāda c 末尾に相当すると考えられる。なお、先行箇所は、*āktik(e) [m]ā klut̪kaṣṣ̺a(m)* と推定される。
- (2) この語形は、*[r]w(ā)starm[e]* と推定される。語根は *ru-* と考えられ、トカラ語 B の形態論から、接尾辞 *-sk-* を伴った語幹の三人称単数中動態の形式に代名詞接辞複数形 *-me* を付加したものと判断されるが、文脈を欠いているため、現在形か接続法かを判断できない。また、トカラ語 B には‘to open’と‘to pull out’の二つの *ru-* が知られているが、いずれとも判断できない。
- (3) 文脈を欠いているため、確実な推定とは言えないが、*pālw-* ‘to complain’に接尾辞 *-sk-* を附した語幹の形式が推定されるかも知れない。
- (4) この箇所は、*ś[ā]mpaṣ(s)em̪* と推定される。
- (5) この語形に含まれる<*ska*>の基字<*sa*>は<*ta*>に見えるが、*mrautk-* という語根は知られていないため、ここでは *mrau[t̪]k̪astarme* とはしていない。
- (6) 第 10 詩節 Pāda b 末尾に相当すると考えられる。
- (7) 第 10 詩節 Pāda c 末尾に相当すると考えられる。
- (8) この箇所は *(ku)[n̪](t̪)ipāsaṃ* と推定されるが、在証される形式は *kuntipāsaṃ* ‘pot-vessel’である。
- (9) 第 10 詩節末尾に相当する。
- (10) B73a2 に従えば、基字には<*kcyā*>が期待されるが、<*cya*>となっている。
- (11) 第 12 詩節 Pāda a 末尾に相当するが、後続するのは Pāda c 冒頭部分となっており、書写の際に Pāda b を落としたと推定される。
- (12) B73a4 により、*kauñākta* は *kauñākte* の書き誤りと考えられる。

[対応箇所]

a5 = B73a1; b1 = B73a1-2; b2 = B73a2; b3 = B73a2-3; b4 = B73a3-4; b5 = B73a4-5

LM20-1552-11: 12d–15c

Size w: 13.0 × h: 7.8 cm

a

- 1 – mā so [y]· [s]tar[s] \ – – – – – ///
- 2 [y]s[ā]s[ša] wārtye [ra]m[] © y[s]ā – ra karse mlyu ///
- 3 c pāke nākcyat^[1] – [du-] O mne ywāršk· [k]· ///
- 4 yailu[wa] tan̄ki [pā-] O rkrona prarof[n̄] \ ///
- 5 [šša] mā ·[p]· rya m· no rukausa pw asāñčnesa wa – ///

b

- 1 [k]· rya k[atk]kre karts[e] kele ywārška mīše kare [p]e – ///
- 2 ntam[] krentaunašše samūd[] © dhyananmaššana [s]· ///
- 3 cci 10 4 p[als]ko- O šši špālme[] ///
- 4 © ompalskoññešši snai [k]· – wār[]tonta pelai ///
- 5 ·(·)ā [s]š· cintā – n̄i ku[]m [t]· – – s· ·[e] ///

[注釈]

本断片は folio の左端から紐穴右側までを残し、左端には folio 番号の<5>が記されている。

(1) B73b1 との対応から、男性単数形の *nākcyē* が期待される。

[対応箇所]

a2 = B75a1; a3 = B73a6–b1 (= B75a2); a4 = B73b1 (= B75a2); a5 = B73b2 (= B75a3); b1 = B73b2–3 (= B75a4); b2 = B73b3; b3 = B73b4 (= B75b1); b4 = B73b5 (= B75b2); b5 = B73b5–6

LM20-1552-9: 15d–18c

Size w: 5.1 × h: 7.5 cm

a

- 1 nt· nasa [s]· ///
- 2 nīlše meñ[ne] ///
- 3 yase [kw]ī ·[e] ///
- 4 sa warñai yā ///
- 5 la[]ške so – ///

b

- 1 ts· ram[] ///
- 2 tskerkkane ai ///
- 3 tskerkka[n]em(·)· ///
- 4 ke paine w[] ///
- 5 mekwasa ///

[注釈]

本断片は folio の左端に相当し、左端には folio 番号の<6>が記されているが、紐穴部分には達していない。なお、本断片の a3 及び a4 は共に B74a2 に対応部分が認められるが、その他の部分と比較して、両者の間に推定される音節数が少なすぎるため、韻文の内容に異同があったと見られる。

[対応箇所]

a1 = B73b6; a2 = B74a1 (= B75b4); a3 = B74a2; a4 = B74a2; a5 = B74a3; b1 = B74a3; b2 = B74a4; b3

= B74a5; b4 = B74a5; b5 = B74a6

LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1: 18b–21d

Size w: 20.0 × h: 7.9 cm + w: 11.7 × h: 7.8 cm; (全体) w: 30.2 × h: 7.9 cm

a

- 1 – – – (·)[ai] – – [ñā] – – – – – – – – t[r]ā kw· – – [šš]·
[n]·am – – – {–} [s̥arw]· – [šš]· ta[n̄] y· rpene lkā – r\
- 2 – ·[e] – – – – – – ·š· – – ·k· ·[ñ]· [š]m· [m]· ne – – ñkar ñemo
– [pa] ·[k]· r poyś[i] pra – ñkare i[nd]ra[dh]vaje
- 3 – – – – h· tai – O © śrīsam̐bha – – ·[t]· [r]e – – – – – ·[e]
artha – – su[jā]t· – ·[su] – [tre] ©]
- 4 – – – warñai po[yś]· ntasa tañā\ yai[tw] er[s]na tapākye [ra]m\ [y]· [šš]·
– – – – – [lō] – – [k]· [ta] – [r]·(·)e
- 5 kauñ[ā]k[e]^[1] laktsy ā[ntse]sa tañā\ śwālyai lkātar\ yaitu yaltse ·w· ·[c]· – –
wai ā[ntse]sa – [tu] taka {– –}

b

- 1 p̄allentašše meñāktesa sume[r] śl·m̐ tse tsan̄kar ram\ © śwālyai m̄ark[w]· c·a
[o] – k[ai] viṣṇu sai[wai] – no ma ·i –
- 2 re m̄ark[wactsa] tañā\ kaur̥ṣa pkai © śwālyai ckāckaisa kesare šeca[k]e [pr]· –
– [t] on̄[k]olmo lkā[ta]r s· – ckā ·[k]· {–}
- 3 © [20] ly[ū]k· wmer korne O cakravārttiña p[r]ats[āk]ai[n]e ·ī [v]· – l·e
[n]· – – [v]· r[ī]\ s· – [nn]· ·[še sī]
- 4 ^[2] – (·)k· (·)[n]·^[3] śuddhavāsa ·[i] ñakti lkāntar kau – [ram](·)· –
[mpa]ls[k]· [ññe] (·)[e] – [ne] © m̄a^[4] – [e] – – [va]śavartī[šš]i – – {(–)}
- 5 m[o] ta r· – yāp\ toṣī t·š· ñ· kt·^[5] – – – {–} – – – l[e] s· – –
{–} – [m]· – – [r̥sa ñā]kcy[ai] rīne vai – [yam]

[注釈]

LM20-1552-13 は folio の左端から全体の三分の二、LM20-1552-15 frg.1 は右側の三分の一を残し、両者は直接接合する。LM20-1552-13 の左端は磨滅しており、folio 番号は残されていないが、ドイツ所蔵写本との比較から folio 番号は<7>と推定される。なお、左端から約 8.0cm の位置に紐穴が穿たれている。

- (1) この部分の読みに誤りはなく、kauñākte の書き誤りである。
- (2) この箇所は šeṣī(rku)、或いは šeṣī(rkoṣ)かも知れない。
- (3) この箇所は、k(or)n(e)と復元できるかも知れない。
- (4) 或いは<pa>とすべきかも知れない。
- (5) この箇所は、toṣī(ś)ś(i) ñ(a)kt(i)と復元される。

[対応箇所]

a1 = B74b1; a2 = B74b2; a3 = B74b2-3; a4 = B74b3-4; a5 = B74b4; b1 = B74b5; b2 = B74b5-6; b3 = B74b6; b4 = B76a1; b5 = B76a2

LM20-1551-3: 24d-27d (?)

Size w: 14.2 × h: 7.8 cm

a

- 1 /// - [kw]ra [k]· - [l](·)· [wa]lo lkā[ia]rne cakrav[ā] -
- 2 /// lk[ā]ia -_N - - ·[ru ra] - [taṃ] - - [ta]ñ sa[s]wa
- 3 /// - lmem ye - - - - - [ñ]\ [ke]k[ts]eñ[sa] ·ī
- 4 /// k[e]sa [20 5] - - - [y]· - y[lai]ñä[kte]^[1] {- - -}
- 5 /// [sa] - - [r]· - - - - {- - - - -}

b

- 1 /// r· - - - - - (·)[ts]· - {- - - - -}
- 2 /// ktse [ñ](·)· ki^[2] - - - [sa lyuk]·^[3] [o] ·[t]· {- - - -}
- 3 /// ñakteṃne - - - ka[r]ts[e] k[r]e[nta]ṃ - - [hwāk]·^[4] - -
- 4 /// (·)[st]· r· - - - - [wa] - [rā] - ank[ai](·)^[5] pi[l]k[o]
- 5 /// (·)[s]· - [ā] - [ra] lyuk[e] sai[m] ·ä[st]·^[6] [saswe]

[注釈]

本断片は folio の右端に相当しており、右端の空白部分も見える。左端の欠落により folio 番号は残されていないが、ドイツ所蔵写本との比較から folio 番号は<9>と推定される。

(1) <y lai>から<kte>の下には別の小断片が張り付いており、<y lai>の下に<ma>が読み取れる。

(2) この部分は、(ke)ktse[ñ] (re)ki と推定される。

(3) この語は、lyuk(e) と推定される。

(4) この語は、[hwāk](e) と推定される。

(5) この語は、ank[ai](ṃ) と推定される。

(6) この部分は、sai[m] (w)ä[st](e) と推定される。

[対応箇所]

a1 = B76b4; a2 = B76b5; a4 = B76b6

4-3. 韻文の再建

本節では、前節で転写を与えた断片の内、B73-76 に基づいた本文に対して、旅順博物館所蔵断片を参考に欠落部分を補って、韻文を再建している。異読に対する扱いは、写本 A と同様である。比較対照が可能な部分からは、これらの写本が示す本文は基本的に同一のものと考えられ、異読は言語特徴の相違に関わる部分が殆どである。なお、再建を試みるのは、再建が可能な第 11 詩節から第 25 詩節であり、その他の韻文については扱わない。

第 25 詩節に言及されるように、これらの韻文は仏陀の身体的特徴を讃美したものであり、特に三十二相 (Skt. *mahāpuruṣa-lakṣaṇa-*) 及び八十随好 (Skt. *anuvyañjana-*) を処々に読み込んでいることから、これらの讃仏詩は仏陀の身体の偉大さを主題としていると見られる。なお、注釈では関連する三十二相及び八十随好を注記するが、内容が完全に一致しているとは限らず、判断が困難な場合には注記しない¹⁹。

韻律: 4×25 = 5/5/8/7

sklokacceṃ śāmnāṃts | skloksa wikāssi | kām̐twāṣṣe -----|-----|
-----| (sā)ntine ramt kaum̐ | tapāki ramt ñākcy(ai) lak̐tsai | ñākcye rātreṃ aṃśūksa |
eṃṣke takar̐ṣke | lkāntār ----|-----| rā(tr)eṃ – we pai(n)e ramt |
lyelykormēṃ kantwa | snai-sklok māskeṃtrā |
aīśmauñ^[1] śāmna te-maṃt weskeṃ | watkal poyśi kāṣṣī se //11//

a: LM20-1552-12 + LM20-1551-1 frg.2b1 /// --- ·tā ṣṣ· wimānme(m) ///

b: LM20-1552-12 + LM20-1551-1 frg.2b1-2²⁰

/// (sā)nt(i) ra(m)t (kaum̐ | ta)pāky(e) ra ñākcy laktsa | ñā(k)cy(e) rā(tr)eṃ a(m)ś(ū)ks(a) |

[注釈]

本詩節は欠落部分が多いが、全体は(50)Raktajihvaḥ (舌色紅)に関連していると見られる。荻原 (2019: 101) で指摘したように、Pāda b には重要な異読が見られる。即ち、内容はほぼ同一であるが、*tapākye* ‘mirror’, *ñākcy* ‘divine’, *lak̐tsa* ‘brilliant’が示すように、本文として採用した B73a1-2 は斜格形を使用する一方、LM 20 1552 12 + LM 20 1551 1 frg. 2b1-2 は主格形を使用している²¹。Pāda a 後半から Pāda b 前半にかけて欠落があり、また Pāda c 冒頭の接続詞 *eṃṣke* ‘until’は新しい文の開始と見られるため、いずれを取るべきか判断できない。

(1) Peyrot (2008: 53–54) に指摘されるように、後期・口語のトカラ語 B の特徴と考えられる。

[和訳]

^(a) 惑いを懐いた人々の惑いのために、舌の [...] 宮殿から²² [...] を追い払うため、^(b) [...] 神々しく、赤い上着には、朝の薄明における太陽のような、(また)神々しく、輝かしい鏡のような [...] ^(c) 敬虔さ、[...]、赤く [...] 両足のような [...] さえも彼らは見る。^(d) 彼らは舌を見て、惑いなくなる。賢者達はこのように述べる。「まさしく、彼こそが師仏陀である」と。

¹⁹ 三十二相及び八十随好の順序や内容は統一されていないため、ここでは『翻訳名義大集』並びに『大智度論』を利用する。後者は、同書のフランス語訳 Lamotte (1944: 272–279) を利用して、トカラ語 A 文献中の三十二相の記述を扱った Couvreur (1946) でも参照されている。注記に際しては、三十二相及び八十随好のサンスクリットと漢訳を対照させて列挙している『翻訳名義大集』を主にし、(大)は『大智度論』にのみ見られる記載を示す。また、三十二相はローマ数字、八十随好はアラビア数字によって『翻訳名義大集』或いは『大智度論』における順序を示している。なお、三十二相の解釈については、Waldschmidt (1956: 101–110) を参照。

²⁰ ドイツ所蔵写本との比較を試みた荻原 (2019: 101) でもこの部分を引用したが、(sā)nt(i)に対する処格語尾の有無など、細かい部分で転写に誤りがあったため、ここに訂正する。ただし、拙稿の論旨に影響はない。

²¹ LM20-1552-12 + LM20-1551-1 frg.2b1-2 冒頭の(sā)nt(i)は、処格形 sāntine の書き誤りと考えられる。

²² ここでは、LM20-1552-12 + LM20-1551-1 frg.2b1 の示す本文に従って和訳しているが、韻文中の正確な位置は不明なため、再建した韻文には入っていない。

āśmeṃ eśnemeṃ | urṇameṃ māntak | kantw(a) rano^[1] *ṣāṇwanmameṃ | sārwanāṣṣe yerpemeṃ*^[2] |
tseñān = arkwina | meñ-yokāññana | ----- | ----- |

yaitu kektseñṣe | kauñākte ṣek tañ | sumeṣṣana swaṇcaintsa ramt | yaitu tākaṃy kauñākte |
tus(a) ^[3] *ñakti | śuddhavās wārñai | śāriputreṃ me(tr)āksa (śle)*^[4] *| mā soy(ā)štārś --- //12//*

a/c: LM20-1552-12 + LM20-1551-1 frg.2b4 /// *(ye)rpemeṃ | yaitu kektseñṣe kauñākt(e) ṣek tañ |*

c: LM20-1552-12 + LM20-1551-1 frg.2b5 *sumeṣṣan(a s)w(a)ñcaintsa ra | yaitu tākoy kauñā(kte) ///*

[注釈]

本詩節は、(XVII) *Sūkṣmasuvarṇacchaviḥ* (皮膚細滑)・(19) *Mṛṣṭagātraḥ* (身光沢如彫琢)・(大15)「身光面一丈」(T.25, no. 1509, 681a12-13)に関連していると見られる。

(1) *TochSprR(B)* II: 12, fn. 9 は、欠落部分に *koynaṣṣana* を推定する。

(2) この部分は、(47) *Bimbapratibimbadarśanavadanaḥ* (面満浄如満月)と関連するかも知れない。

(3) 後続する *ñakti* にかかる指示代名詞・複数主格男性形が、推定されるかも知れない。

(4) この推定は、LM20-1552-1 frg.2 + LM20-1551-1 frg.2a4 に基づいた。

[和訳]

^(a)頭から、両肩から、また白毫から、舌と喉から、面輪から、^(b)青・白・月のような色の [...] ^(c)あなたの身体の太陽は常に飾られている。太陽が須弥山の光で飾られているように。^(d)そのため、舍利弗や弥勒も含め、浄居天などの神々、(彼らによっても?) 彼の [...] は満足させられない。

tparyane tañki | wartsane āmtsne^[1] *| wartsa wlaś(k)a l(y)āk pratsāko | kañcām-ysāṣṣa wartye*^[2] *ramt |*
ysāṣṣe ramt karse | mlyuweñc^[3] *pokaine |*

ṣeckem(ts wcukaine) ṣñ(a)ntse^[4] *wat | maṃt kektseñe kauc pāke*^[5] *|*

ñākcy(e) padūmne | ywārcka kesārne | cakkarwisa mittarwisa | tsetskāñṣ tañ ālīn(e)^[6] *|*

yailuwa tañki | pārkr(o)n(a) pr(a)r(o)ññ^[7]

| n· p· m· ----- ·k· ñc | ścir(i)nts(o) r(a)mt lyelykuwa //13//

b: LM20-1552-11a2 *ysā(ṣṣe) ra karse mlyu(weñc) ///*

c: LM20-1552-11a3 *ñākcyai (pa)dumne ywārśk(a) k(esārne) ///*

[注釈]

(1) この部分は、(XIV) *Suṣaṃvṛttaskandhaḥ* (臂頭円相)との関連を指摘できるかも知れない。

(2) 初出の語であり、また関連する記述を見出せていないため、語義を推定できない。

(3) この部分は、(XXXII) *Aiṇeyajāṅghaḥ* (甕如鹿王)との関連を指摘できるかも知れない。

(4) この部分は、(XI) *Siṃhahanuḥ* (頰車如獅子相)との関連を前提に推定した。

(5) この部分は、(XIX) *Siṃhapūrvārdhakāyaḥ* (上身如獅子)と関連している。

(6) この部分は、(XXIX) *Cakrāṇkitahastapādaḥ* (手足具千幅輪)と関連している。

(7) この部分は、(XXVIII) *Dirghāṅguliḥ* (指纖長)と関連している。

[和訳]

- ^(a)非常に盛り上がった、広い両肩。広くて、柔らかく、平らな胸は黄金色の *wārtse* の如く、
^(b)両腿と両腕は黄金色の鹿の如く、その両頬は獅子の（それ）、或いは身体の上半身も同様に。
^(c)あなたの両手は、神々しい蓮華の真ん中の二本の雄蕊・二つの輪と二つの太陽によって特徴づけられている。^(d)非常に長く、しなやかな指 [...] 星々によって照らされた如くである。

kātso mā tparya | mā ra rukausa^[1] | *pw asāñnesa wawlāwaua | pratsākaisa yaitusa |*
wlaška lyakwañña | ślyasṣ(a) prakarya | kātke kartse^[2] | *kele ywārška | mīṣe kare pernettse |*
po aiśiññeṣem | pelaiKNentamts^[3] | *lwāke ścmonñña aiśamññentse | krentaunaṣṣe samūdrā*^[4] |
dhyananmaṣṣana | swañcaints = enenmem | lyelyūkusa sūryakāmṭṣi | kerci ramt^[5] | *lāktseci* //14//
a: LM20-1552-11a5 *ṣṣa mā (t)p(a)rya m(ā) no rukausa pw asāñnesa wa(wlāwaua) ///*
b: LM20-1552-11b1 *(pra)k(a)rya kātke kartse kele ywārška mīṣe kare pe(rnettse) ///*
c: LM20-1552-11b2 *ntamts | krentaunaṣṣe samūdtār |*
d: B75b1 */// (lyelyūku)sa sūryakāmṭṣi | kercci ram no lāktsecci 10 4*

[注釈]

Pāda a 及び Pāda c は LM20-1552-11 の冒頭に異同が見られるが、全体を推定できない。

- (1) この部分は、(35) *Abhugnakukṣiḥ* (腹無凸凹) に関連している。
(2) この部分は、(37) *Gambhīranābhīḥ* (臍深円好) に関連している。なお、この部分の解釈について、荻原 (2019: 104–105) では B73b2–3 の *wartse* ‘broad’ と LM20-1552-11b1 の *kartse* ‘good’ を比較し、もともとの本文は *kartse* であり、古代期トカラ語 B の *kārtse* が、<wa> と <ka> の字形の類似のため、ドイツ所蔵写本の書写の際に <kartse> を <wartse> と誤った可能性を指摘した。拙稿執筆時にはこの箇所と八十随好との関連に気づいていなかったため、具体的な文献学的根拠を提示できなかった。この両者の関連に基づき、ここでは本文を旅順博物館所蔵写本によって改めた。
(3) *TochSprR(B) II: 13, fn. 9* の指摘に従い、B75a4 の形式を採用した。
(4) この Pāda c は、それぞれ讃仏詩に見える *Skt. dharmarāśi-* ‘the heap of properties’, *guṇākara-* ‘the mine of virtues’, *puṇyodadhi-* ‘the ocean of merit’ にほぼ対応する²³。
(5) *TochSprR(B) II: 13, fn. 12* に指摘されるように、韻律上一音節不足しているため、ここには *ramtā* が期待される。なお、この部分に異読を示す B75b1 は、音節数に問題はない。

[和訳]

- ^(a)腹部は突き出しておらず、また痩せ過ぎてもいない (= 凹凸がない)。全て臀部によって支えられ、胸に飾られていて、^(b)柔らかく [...] しっかりとして、堅固である。輝かしい野原(のような身体)の真ん中には、深く、均整の取れた臍がある。^(c) (その身体は) 全知の者 (= 仏陀) の諸法の入れ物であり、叡智の根本であり、徳行の海である。^(d) 内側からの禅定の光によ

²³ 関連する讃仏詩については、Bailey (1951: 147, 179) の第 149 詩節を参照。

って、輝かしい日水晶でできた剣のように、照らされている。

pālskoṣṣi śpālmeṃ | ckenta piś reskeṃ | rāddhinmaṣṣi spāntaitsñeṣṣi | nāgi yāḳṣi gandhārvi |
ompalskoñeṣṣi | snai-keś wārttonta | pelaikneṣṣi preṅki aurcci | krentaunaṣṣi naumyenta |
mārgaṅkantaṣṣe^[1] | war kārūnāṣṣe | cintāmaṇi kwāntsaññeṣṣ(e) | sumer rīye nervāmṣṣa |
maṃt tañ kāsāṣṣe | samudtār saswa | kātkañesa krentaunasa | samudtārnta ṣeṣṣirku //15//
 c: LM20-1552-11b5 (karūn)āṣṣ(e) cintā(ma)ṇi kuṃt(saññeṣṣe) s(um)e(r) ///

[注釈]

(1) TochSprR(B) II: 13, fn. 14 に指摘されるように、この語形では韻律上一音節不足するため、ここには *mārgaṅkantaṣṣe* が期待される。なお、語幹 *mārgāṅk** (<Skt. *mārgāṅga*-) を Adams (2013: 482) は ‘part, subsection of the way’ とするが、筆者は *āryāṣṭāṅgamārga*- ‘eight-fold Noble Path’ を指すと解釈した。

[和訳]

^(a)素晴らしい意識の五つの河が合流する。諸々の神通力を持った、信頼できる龍・夜叉・乾闥婆。^(b)禅定のための無数の森林。法でできた広い島々。善行の宝。^(c)八支聖道や慈悲の水。堅固な如意珠。須弥山や涅槃城（が集まる）。^(d)尊敬すべき者よ、あなたのお腹の海もまた同様で、（その上）深さと美德で他の海を凌いでいる。

kañcān-isāṣṣai | tapākine ram(t) | ---- spertte^[1] tākoy | indranīṣe meñne ramt |
ysā-yokāññana | rājawat-yo(k)^[2] | ---- (s)w(a)ññai(m) ko -- ñ^[3] | ścirye ram no lyukemo |
ś - y - -- | ----- | ----- sta | yase kwīpe alyeṅkāṃts |
ompalskoñesa | warñai yarpontants | oko wsāsta yonmasta cem | śpālmeṃ lakṣām goś(a)g(a)^[4] //16//
 d: LM20-1552-9a4 sa warñai yā(rpontants) ///

[注釈]

(1) Adams (2013: 788) は、Toch.B *spertte* に対して ‘function, behavior(?)’ という語義を与えているが、この文脈には合わない。
 (2) Adams (2013: 573) は、この語を ‘indigo/turquoise-coloured’ と解釈する。また、この語は B91b6 にも在証され、Schmidt (2001: 322) も同様に解釈するが、筆者はこの韻文の在証例については *yok* ‘color’ ではなく、同音異義語 *yok* ‘hair’ と解釈し、「ラピスラズリの如き（色の）髪を備えた」と解釈した²⁴。即ち、この部分はトカラ語 A «*Maitreyasamitināṭaka*» 断片 YQ 1.12 (II.10.) a7: *rājavarṭt yok* に対応すると見られ、MSN: 118 のこの箇所に対する注釈では、八十随好中の (74) *Bhramarasadrśakeśaḥ*（髪色紺青如蜂王）に対応する旨、記載されている²⁵。Toch.B *rājawat-yok*

²⁴ Skt. *rājapaṭṭa*- が ‘indigo/turquoise’ ではなく、‘Lapislazuli’ を指す点は、Bailey (1955: 22) を参照。

²⁵ この例については、MSN: 114-115, 118 を参照。ただし、編者はこの部分を ‘multicolored (is) his body hair’ と英訳しており、294 頁では *rājavarṭt-yok* ‘multicolored’ (cf. Skt. *rājavarṭa*-) と注記している。八十随好との対応から、Toch.A *rājavarṭt* を Skt. *rājavarṭa*- ‘cloth of various colors’ (MW: 874a) とする解釈は正しいとは言えず、Wilkens (2016: 1039) に指摘されるように、この語は Skt. *rājavarṭa*- ‘Lapislazuli’ の借用語である。なお、八十随好中の Skt.

と Toch.A *rājavart-yok* との対応が正しいならば、トカラ語 A の語形と同様に、前者の後分 *yok* は ‘color’ ではなく、‘hair’ と解釈すべきである²⁶。なお、先行する *ysā-yokāñña* は *ysā-yokāññe* ‘golden’ の女性複数主格・斜格形であり、後続する Toch.B *swāñco ~ swañciye* ‘(sun) beam’ を修飾していると見られる。

(3) TochSprR(B) II: 13, fn. 19 が推定する *ko(yne ta)ñ* は残存部分から支持されないが、それに代わる推定を提出することはできない。

(4) この部分は、(XXIII) *Kośagatavastiguhaḥ* (陰蔵如馬王) に関連している。

[和訳]

^(a) 黄金の鏡のように [...] 月にある青宝の [...] ように [...] ^(b) ラピスラズリの如き (色の) 髪 [...] 黄金色の [...] 光を [...] 輝ける星の如く ^(c) [...] あなたは、他の人々の恥を [...] した。 ^(d) 禪定などの功德の果実を、あなたは与えた。あなたは、この素晴らしい陰蔵如馬王の属性を獲得した。

-----| (were la)laṃṣke^[1] | somo somo klokaśne ltū | wlaṃṣke yok tañ keksentsa^[2] |
māka tānwañe | lkātsi celentrā^[3] | kaunaṃtse ramt swa ----^[4] | -----|
airawantaṃtse | oṅkolmaits lānte | s(e)yi ramt^[5] | šuñe tskertkane | aineyentse lwāntse ramt^[6] |
hyāk sauke tañki | (w)lai(śke) ---- | ----- | ktentse | tskertkanempa tasaitār^[7] //17//

c: LM20-1552-9b2 tskerkkane ai(neyentse) ///

d: LM20-1552-9b3 tskerkkanem(pa) ///

[注釈]

(1) この部分には、(大 42)「毛孔出香氣」(T.25, no. 1509, 684c4) との関連から、Toch.B *were* ‘smell’ を推定した。

(2) この部分は、(XXI) *Ekaikaromapradaḥkṣiṇāvartah* (身毛上生青色柔軟) に関連している。

(3) この部分は、(39) *Samantaprāsādikaḥ* (観無厭足) との関連を指摘できるかも知れない。

(4) Toch.B *swāñco ~ swañciye* ‘(sun) beam’ が推定されるが、語形を確定できない。

(5) TochSprR(B) II: 14, fn. 7 に指摘されるように、韻律上一音節不足しているため、ここには *ramtā* が期待される。

(6) この部分は、(XXXII) *Aiṇeyajāṅghaḥ* (牝如鹿王) との関連を指摘できる。

(7) TochSprR(B) II: 14, fn. 9 とは異なり、Schmidt (1975: 287–290) は、この形式を単数形 *tasetār* の誤りではなく、双数形と見做している。

[和訳]

keśa-は ‘the hair of the head’ (MW: 310a) と解釈されるため、MSN 中の上記英訳は訂正されるべきである。

²⁶ この語に対応する古代ウイグル語 *raṣ-awrt önglüg kök sači* ‘sein *rājavarta*-farbenes, blaues Haar’ (MS: 154–155) も、Toch.A *yok* が ‘color’ ではなく ‘hair’ を指すことを支持する。なお、B91b6: *rājavat-yok matsi cwimp* の解釈について、後続する部分が欠落しており、必ずしも ‘Rājapatta-[blau]farben [ist] sein haupthaar’ (Schmidt: 2000: 322) と解釈されるとは限らず、「ラピスラズリの如き (色の) 髪をし、彼の頭髮は [...]」と解釈される余地もあると、筆者は見ている。

^(a)[...] 柔らかい（香り）[...] あなたの身体にある一つ一つの毛穴に、柔らかい毛が生じた。
^(b)[...] は見ていて、とても優しく感じられる。太陽の光のように [...] ^(c)象の王である Airāvāṇa
 の子供の胴体の如く、動物たる羚羊のふくらはぎの如く ^(d)[...] とても平らで [...] 柔らかい
 [...] のふくらはぎに比較される。

ṣhyaṣṣi snai-rūki | sprāne sesīnauṣ | lalaṃṣk(a)ne aurtṣi pauke^[1] | paine wlaṃśli snay au – |
 ----- | ----- ts· | praroñ māka lalaṃṣkan(a)^[2] | lyelyūkwa ṣaṇ mekwasa^[3] |
 wawākausai ram(t) | ----- n· | cakkarwisa mittarwisa^[4] | ----- |
 --- (yai)toṣ | bramñākte warñai | po śaiṣṣents(e) wewīnaṣṣoṣ | maitrāk warñai kāṣṣi(ntam)ts //18//
 d: LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1a1 --- ·(·)ai --- ñā ----- (mai)trāk w(arñai
 kā)ṣṣ(i)n(t)am(ts)

[注釈]

- (1) 文脈から双数形 *pokaine* が期待されるが、この形式では韻律の規定より一音節長くなる。
- (2) この部分は、(大 4)「手足柔軟勝餘身分」(T.25, no. 1509, 681a5) との関連を指摘できるかも知れない。
- (3) この部分は、(1) *Ātāmranakhaḥ*（爪如赤銅色）に関連する。なお、クチャのキジルで発見されたサンスクリット断片中の讃仏詩にも、関連する記載が見られる²⁷。
- (4) この部分は、(XXIX) *Cakrāṅkitahastapādaḥ*（手足具千幅輪）と関連しているかも知れない。

[和訳]

^(a)堅く、無駄がなく、ほっそりとしたかかと(?)、柔らかく、幅広い両腕、[...] のない両脚、
^(b)[...] 指はとても柔らかく、自分の爪によって照らされている。^(c)[...] 開いた [...] の如く、二
 つの輪と二つの太陽によって ^(d)[...] 飾られており、バラモンなどの全ての衆生達や、弥勒など
 の師達によって尊敬されている。

sār(w)(ā)nāṣṣe tañ | yerpene^[1] lkā(ntā)r | ----- | (ompa)lskoñe ṣmemane |
 kṣemaṅkar ñemo | dīpaṅkar poyśi | prabhaṅkare indradhvaje | dhṛtirāṣṭre hitaiśi |
 śrīsaṃbhave | u(t)t(a)re --- | --- ·e arthadarśi | sujāte ślek sunetre |
 kāśyapsa warñai | poyśintasa^[2] tañ | yaitwa ersna tapākya ra | ysāṣṣa ----- //19//
 a: LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1a2 - ·e ----- ·ś· (ompals)k(oñ)ñ(e) ṣm(e)m(a)ne
 d: LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1a4 --- warñai poyś(i)ntasa tañ yaitw = ersna tapākya
 ramt y(sā)ṣṣ(a) -----

[注釈]

荻原 (2019: 103) で指摘したように、Pāda d に対する異読 LM20-1552-13 + LM20-1552-15
 frg.1a4 は sandhi を使用しているため、韻律の規定よりも一音節少なくなっている。

²⁷ Schlingloff (1955: 108–109) の *Preis des Körpers Buddhas* (1) 第 14 詩節を参照。

(1) この部分は、(47) *Bimbapratibimbadarśanavadanaḥ* (面満浄如満月) との関連を指摘できるかも知れない。

(2) ここで言及されている諸仏については、荻原 (2014) を参照。

[和訳]

^(a)あなたの面輪には、禪定を行っている [...], ^(b)*Kṣemaṅkara* という名 (の仏陀)、*Dīpaṅkara* 仏、*Prabhaṅkara*, *Indradhvaja*, *Dhṛtirāṣṭra*, *Hitaiṣin*, ^(c)*Śrīsaṃbhava*, *Uttara* [...] *Arthadarśin*, *Sujāta*, そして *Sunetra* が見える。^(d)*Kāśyapa* などの諸仏によって、あなたの姿は飾られている。黄金の鏡 [...] のように。

– *k- takarṣke* | *kauñākte laktse* | *āntsene tañ śwālyai lkātār* | *yaitu yaltse swaṅcaintsa* |
saiwai āntsese | *yaitu taka(rṣke)* | *pāllentaṣṣe meñāktesa* | *sumer ślentse tsāṅkār ram*^[1] |
śwālyai mārkwactsa | *ok pokai viṣṇu* | *saiwaisa no mahiśvare* | *mārkwactsa tañ kauṛṣa-pkar*^[2] |
śwālyai ckāckaisa | *kesare-ṣecake*^[3] | *pr- – t oṅkolma*^[4] | *tañ* | *lkātār saiwai ckāckaine* //20//

a: LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1a5²⁸ *kauñāk(t)e laktse = āntsese tañ śwālyai lkātār-ś yaitu yaltse (s)w(añ)c(aintsa)*

d: LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1b2 *pr- – t oṅkolmo lkātār s(aiwai) ckā(c)k(aine)*

[注釈]

(1) *Pāda b* は *Pāda a* と対を成しているが、前者には形態論上主語と解釈される名詞が見られない。即ち、ここでは Toch.B *meñākte* ‘moon-god’ が通格語尾を取り、この通格形と結びつく Toch.B *yaitu* は *yāt-* ‘to decorate’ の過去分詞男性単数主格形であることから、主語として男性名詞主格形が期待されるが、それに相当する名詞は見られない。また、Toch.B *āntse* ‘shoulder’ の通格形 *āntsese* は場所を指示していると考えられ、強いて主語を考えるなら、仏陀を指す *twe* ‘you’ となる。この場合、*Pāda b* は単独で一つの文と解釈される。

(2) この箇所の解釈については、Pinault (2001: 168–170) を参照。

(3) 「獅子」と和訳した Toch.B *kesare-ṣecake* の前半を、筆者は Skt. *kesarin-* ‘lion’ の借用語と見做した。対応する表現はトカラ語 A 文献においても *kesār-śiśāk* ‘Kesarin lion’ として在証しており、Carling (2009: 160b) は Skt. *kesari-siṃha*-の calque と解釈している²⁹。なお、この部分は一音節多い六音節となっている一方、後続する部分は一音節少ない七音節となっているが、両者を併せて、韻律に規定される十三音節となっている。ただし、異読を示す LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1b2 は、一音節不足している。

²⁸ ドイツ所蔵写本との比較を試みた荻原 (2019: 103–104) でもこの部分を引用したが、*lkātār-ś* に対する代名詞接辞の有無等、細かい部分で転写に誤りがあったため、ここに訂正する。ただし、拙稿の論旨に影響はない。

²⁹ この語は初出であるため、Adams (2013: 213) には Toch.B *kesare* ‘Kesare’ のみを登録している。トカラ語 A との対応から、複合語 *kesare-ṣecake* ‘Kesarin lion’ を認めるべきである。

- (4) この部分で異読を示す LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1b2 は *oṅkolmo* と男性名詞となっており、女性名詞の *oṅkolma* とは文法性が異なる。確定的な理由は不明だが、*oṅkolmo* の第三音節の母音<o>を書き落した可能性も否定できない。

[和訳]

^(a)[...] あなたの右肩には、一千の光に飾られた、綺麗で、輝かしい太陽が見える。^(b)あなたは清浄にして、左肩が、須弥山の頂きのように、満月で飾られている。^(c)右の太腿には八本腕の Viṣṇu、また左の太腿には牛の尾を持った Mahīśvara、^(d)あなたの右頬には獅子、左頬には雌象 [...] が見える。

lyūk(e)-wmer^[1] korne | cakravārttiṇ(e) | pratsākaine śrīvās(ṣ)e^[2] l·e | na ----- |
 --- k· n· | śuddhavāsāṣṣi | ṇakti lkāntār-c kauṇī ram no | ompalskoṇe ṣme(mane) |
 mā - e --- | vaśavartīṣṣi^[3] | --- mo ta r· - yāp | toṣū(ṣ)i ṇ(a)kt(i) --- |
 --- (stmau)sa | sudarśaṃ^[4] ṇākcyai | rine śpālmem vaijayanto | stāṇne ----- //21//

a-b: LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1b3 n(a) - - v· rt s· - nn· ·ṣe śī - - (·)k· (·)n·
 śuddhavāsā(ṣṣ)i

b: LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1b4 --- k· n· śuddhavāsā(ṣṣ)i | ṇakti lkāntār kau(ṇī) ram (no
 | o)mpalsk(o)ṇe (ṣm)e(ma)ne |

d: LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1b5 --- l[e] s· - - {-} - m· (suda)rśa(m) ṇākcyai rīne
 vai(ja)yaṃ(to)

[注釈]

- (1) 後続する *cakravārttiṇe* と合わせて、転輪聖王が有する Skt. *maṇiratna*- ‘jewel, gem’ (MW: 775a) (神珠宝) と考えられる。なお、*wamer* ‘jewel’は男性名詞のため、女性形 *cakravārttiṇa* は *cakravārttiṇe* の書き誤りと見做した。
- (2) これまでこの箇所は推定されることがないが、先行部分と対句を形成していると考えられることから、Skt. *śrīvatsa*- ‘name of Viṣṇu, a particular mark or curl of hair on the breast of Viṣṇu or Kṛṣṇa (and of other divine beings)’ (MW: 1100a) の借用語形 *śrīvās**が、派生接尾辞-ṣṣe を伴った形容詞の男性単数主格形が推定される。後続する名詞は確定できないが、Skt. *śrīvatsa*-は (80) Śrīvatsasvastikanandyāvartalalitapāṇipādaḥ (手足吉祥徳相妙好具足) に見られるため³⁰、Skt. *svastika*- ‘a kind of mystical cross or mark made on persons and things to denote good luck’ (MW: 1283a)、或いは Skt. *nandyāvarta*- ‘name of a mystic diagram’ (BSHD: 290a) に対応する可能性が指摘される。なお、Poucha (1955: 333) に指摘されるように、*śrīvās* はトカラ語 A 文献にも在証される³¹。

³⁰ 『大薩遮尼乾子所説経』には、対応する八十随好として「胸有卍字」(T.09, no. 0272, 345a01) とあり、この詩節の当該箇所と対応している可能性が指摘される。なお、この文様は、コータンのパラワステ出土の毘盧舍那仏像とされる壁画に描かれている。また、この壁画では、第二十詩節の記述と同様に、仏の左右の肩に月と太陽が確認される。この壁画については、田辺・前田 (1999: 248, 挿図 263) を参照。

³¹ Couvreur (1954: 104) でも、この語を *śrīvatsa*-と解釈している。

(3) 初出の語であるが、Skt. *vaśavartin*- ‘name of the chief of the *paranirmitavaśavartin* gods’ (BHSD: 473b) の借用語形 *vaśavarti**が派生接尾辞-*ṣṣe* を伴った形容詞の男性複数主格形である。欠落部分には、後半に対応する形で、恐らく *ñakti* が推定される。なお、後続部分には神名などの固有名詞が期待される。

(4) Adams (2013: 761) は *sudarśane* を語幹とし、‘beautiful’ と解釈しているが、もう一つの在証箇所として挙げる B97b3 は文脈が不明確であるため、提示された語義には問題がある³²。一方、本詩節に在証される *sudarśam* は文脈から明らかに都市名であり、上掲 Adams の辞書に見える *sudarśane* とは別に、*sudarśam* を設定すべきである³³。

[和訳]

^(a)喉には転輪聖王の光の宝石(神珠宝)、胸には Śrīvatsa(吉祥相)の [...], ^(b)禪定を行っている浄居天の神々が、太陽の如く、あなたの [...] に見える。^(c)[...] 他化自在天の(神々?) [...] 兜率天の神々 [...] ^(d)神々しい Sudarśana の町(善見大城)にいる [...] 素晴らしい Vaijayaṇṭa の宮殿(殊勝宮殿)にいる [...]

-----|-----|-----| (na)ndaṃ warṇai warttonta |
caṅkene ślentse | śtwer lāñ(c)----|-----|-----|
-----|-----| (nā)kṣāttārnta brahasvati | śukkār⁽¹⁾ war(ñ)ai ----|
-----|-----|-----|-----| //22//

[注釈]

(1) トカラ語 B 文獻に在証される星宿名については、荻原・慶 (2017: 26–27) を参照。なお、当該論文 23 頁の語彙表 Toch.B *ārtār* に対応するサンスクリットとして掲げた ‘*ārdā-*’ は、‘*ārdrā-*’ の誤りであり、ここに訂正する。

[和訳]

^(a)Nandana(歓喜園)などの森林 [...] ^(b)山の麓には四人の王達が [...] ^(c)Bṛhaspati, Śukra [...] などの星宿 [...]

-----	(lkā)tār-c samudtār	ysāṣṣe ñ· -----	-----
(cintā)mañinta | naumyenta s(n)ai-(k)e(ś) |-----|-----|
-----|-----|-----|-----| tañ enestai //23//

[和訳]

^(a)[...] 海があなたの [...] に見える。黄金の [...] ^(c)摩尼宝珠や無数の宝石 [...] ^(d)密かにあなたには(?) [...]

³² B97b3 に見られる *sudarśane* は、僅かに残る文脈から人名の可能性が高い。

³³ Couvreur (1954: 104) では、本詩節の *sudarśam* を都市名と解釈している。

·w·-----|-----|-----|-----|
-----	---l· *cañke*	*rāhu baḍi vema(citre)*	-----
 -(ṣ)*arnesa no* | *lkāntrā tañ lw(āsa)* |-----|-----//24//

[和訳]

[...] ^(b)Rāhu, Baḍi, Vemacitra [...] ^(d)また、あなたの両手には、動物たち [...] が見える。

-----	-----	-----(*kwra*)*kār śpālmem*	*walo lkātār cakravārt*
 -- *tañ (sa)swa* | *lkānt(ā)r-c kektsenne* | *tāryāka wī lakṣānānta* | *mai* -----|
 -----|-----|-----|----*ṣe lyūkesa* //25//

a: cf. LM20-1551-3a1 /// - *kwra(kār śpā)l(mem) walo lkātār-ne cakravā(rt)*

b: LM20-1551-3a2 /// *lkātā(r)* -- ·*ru rā - tam* -

c-d: LM20-1551-3a3 /// - *lmem ye* ----- (*ta*)*ñ kektseṇsa ·ī*

[注釈]

Pāda a に対する異読 LM20-1551-3a1 に含まれる定動詞 *lkātār* には、代名詞接辞三人称単数形 *-ne* が付されているが、指示対象は不明である。

[和訳]

^(a)[...] 素晴らしい重閣 [...] 転輪聖王が見える。^(b)[...] が見える³⁴。[...] ^(c)尊い方よ、あなたの身体に三十二相 [...] が見える。^(d)あなたの身体に³⁵ [...] の輝きによって [...]

5. 結論

本稿では、ドイツ・旅順所蔵写本を中心に、イギリス・ロシア所蔵断片も参照し、トカラ語 B による讃仏詩の再建を試みた。現存するトカラ語文献には、複数の異なる写本断片を利用して、テキストを再建できるものは非常に稀であり、この点でこれらの写本断片は重要な資料と言える。また、各国に所蔵される写本断片が示す讃仏詩の本文は異読を示しつつも、これらの異読は、基本的には同一の内容に対する異なる表現、または古代期・古典期・後期或いは口語のトカラ語 B といった言語特徴を示し、トカラ語 B の異なる段階を反映していることから、同一の讃仏詩がクチャ仏教で長期間にわたり伝えられていたことを物語っている。

一方、再建を試みた讃仏詩は、これまでトカラ語研究では一部が検討されるにとどまっていたものであり、全体の検討は初めてである。特に、本稿で扱った写本 B の讃仏詩は、仏陀の身体的特徴を示す三十二相・八十随好を読み込んでいた。これまでに知られているトカラ語文献中、三十二相を列挙したトカラ語 A の資料はサンスクリットなどとの対照研究が為されている

³⁴ ここでは、LM20-1551-3 の示す本文に従って和訳しているが、韻文中の正確な位置は不明なため、再建した韻文には入っていない。

³⁵ この箇所についても、前注同様に処理している。

が、トカラ語 B 文献にはこのような資料の存在は知られておらず、クチャ仏教が三十二相・八十随好をどのように理解したのかという問題に対する手がかりを提示する。

残念ながら、筆者の調査では、これらの讃仏詩に対応するサンスクリットのテキストを比定することができなかった。そのため、ここで扱った讃仏詩がインド語原典の完全な翻訳であるのか、それとも三十二相・八十随好といったインド語原典に由来する表現を用いた、トカラ語 B による独自の文学であったのかといった点については解決できていない。今後は調査範囲を拡大して、この点の解決を試みることで、讃仏詩が示すトカラ語 B の文体の特徴の解明やさらなる再建などに繋げたい。

参考文献

- Adams, D. Q. (2013) *A dictionary of Tocharian B. Revised and greatly enlarged*. Amsterdam: Rodopi.
- Bailey, H. W. (1955) Buddhist Sanskrit. *Journal of the Royal Asiatic Society of the Great Britain and Ireland* 1955 1/2: 13–24.
- Bailey, D. R. Shackleton (1951) *The Śatapañcāśatka of Mātṛceṭa: Sanskrit text, Tibetan translation & commentary and Chinese translation*. Cambridge: University Press.
- BHSD = Edgerton, Franklin (1953) *Buddhist Hybrid Sanskrit grammar and dictionary. Vol. II: Dictionary*. New Haven: Yale University Press.
- Carling, Gerd (2009) *Dictionary and thesaurus of Tocharian A. Volume 1: A–J*. In collaboration with Georges-Jean Pinault and Werner Winter. Wiesbaden: Harrassowitz.
- CETOM = A comprehensive edition of Tocharian manuscripts, see <http://www.univie.ac.at/tocharian/?home>. (2019 年 3 月 6 日閲覧)
- Couveur, Walter (1946) Le caractère sarvāstivādin-vaibhāṣika des fragments tokhariens A d'après les marques et épithètes du Bouddha. *Le Muséon* 59: 577–610.
- Couveur, Walter (1954) Koetsjische literaire fragmenten uit de Berlijnse verzameling (naar aanleiding van Sieg & Siegling's Tocharische Sprachreste). *Handelingen VIII der Zuidnederlandse Maatschappij voor Taal- en Letterkunde en Geschiedenis*: 97–117.
- Hartmann, Jens-Uwe (1987) *Das Varṇārḥavarṇastotra des Mātṛceṭa*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- 『翻訳名義大集』 = 荻原雲来 (1959) 『梵漢對譯佛教辭典: 翻譯名義大集』 東京: 山喜房.
- IDP = <http://idp.bl.uk/>. (2019 年 3 月 6 日閲覧)
- Lamotte, Étienne (1944) *Le traité de la grande vertu de sagesse de Nāgārjuna (Mahāprajñāpāramitāśāstra). Tome I*. Louvain-la-Neuve: Louvain Bureaux du Muséon.
- 井ノ口泰淳 (1961) 「トカラ語およびウテン語の佛典」 西域文化研究会 (編) 『西域文化研究第四——中央アジア古代語文獻』: 317–388. 京都: 法藏館.
- Malzahn, Melanie (2007) The most archaic manuscripts of Tocharian B and the varieties of the Tocharian B language. In: Melanie Malzahn (ed.), *Instrumenta Tocharica*, 255–297. Heidelberg: Winter.

- MS = Geng Shimin et al. (1988) *Das Zusammentreffen mit Maitreya. Die ersten fünf Kapitel der Hami-Version der Maitrisimit. Teil I: Text, Übersetzung und Kommentar*. Wiesbaden: Harrassowitz.
- MSN = Ji Xianlin, Werner Winter, and Georges-Jean Pinault (1998) *Fragments of the Tocharian A Maitreyasamiti-Nāṭaka of the Xinjiang Museum, China*. Transliterated, translated and annotated by Ji Xianlin in collaboration with Werner Winter, Georges-Jean Pinault. Berlin/New York: de Gruyter.
- MW = Monier-Williams, Monier (1899) *Sanskrit-English dictionary*. Oxford: Clarendon.
- 荻原裕敏 (2012) 「多様な中央アジア仏教におけるトカラ仏教の位置づけ～旅順博物館所蔵資料を中心として～」旅順博物館・龍谷大学 (編) 『「中央アジア出土の仏教写本」国際学术会议』: 97–120. 京都.
- 荻原裕敏 (2014) 「吐火羅語文献所見仏名系列—以出土仏典与庫木吐喇窟群区第 34 窟榜題為例—」『西域文史』第九輯: 33–49.
- 荻原裕敏 (2018) 「ロシア所蔵トカラ語文献に関する覚え書き」『東京大学言語学論集・電子版』(eTULIP 40): e1–e41.
- 荻原裕敏 (2019) 「旅順博物館所蔵吐火羅語残片の特色及語言文献学分析」王振芬・荣新江 (編) 『絲綢之路与新疆出土文献: 旅順博物館百年紀念国際學術研討会論文集』: 88–111. 北京: 中華書局.
- 荻原裕敏・慶昭蓉 (2017) 「大谷探検隊将来トカラ語資料をめぐって (3)」入澤崇・橘堂晃一 (編) 『西域研究叢書 6 大谷探検隊収集西域古語文献論叢: 仏教・マニ教・景教』: 1–29. 京都: 龍谷大学仏教文化研究所西域研究会・龍谷大学世界仏教文化研究センター.
- Peyrot, Michael (2008) *Variation and change in Tocharian B*. Amsterdam: Rodopi.
- Pinault, Georges-Jean (2001) Remarques sur le fragment tokh. B 74 et sur quelques autres textes. *Sprache* 40 (1998): 161–178.
- Pinault, Georges-Jean (2008) *Chrestomathie tokharienne. Textes et Grammaire*. Leuven/Paris: Peeters.
- Pinault, Georges-Jean (2016a) The Buddhastotra of the Petrovskii collection. *Written Monuments of the Orient (Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences)* 2016 (1): 3–20.
- Pinault, Georges-Jean (2016b) Glossary of the Tocharian B Petrovsky Buddhastotra. *Tocharian and Indo-European Studies* 17: 213–247.
- Poucha, Pavel (1955) *Thesaurus Linguae Tocharicae Dialecti A*. Praha: Státní Pedagogické Nakladatelství.
- Schlingloff, Dieter (1955) *Buddhistische Stotras aus ostturkistanischen Sanskrittexten*. Berlin: Akademie Verlag.
- Schmidt, Claus-Peter (1972) *Maskuline Genuskongruenz beim Plural der Substantiva alternantia im Tocharischen*. Unpublished doctoral dissertation, Frankfurt am Main, Wolfgang Goethe-Universität.
- Schmidt, K. T. (1975) Zu einigen Problemen der tocharischen Verbal- und Nominalflexion. In: Rix, Helmut (ed.) *Flexion und Wortbildung. Akten der V. Fachtagung der Indogermanischen Gesellschaft, Regensburg, 9.–14. September 1973*, 287–295. Wiesbaden: Reichert.

- Schmidt, K. T. (2000) Wie zuverlässig sind unsere tocharischen Textausgaben? Kritische Bemerkungen zu den Editionen der *Tocharischen Sprachreste, Sprache B*, von E. Sieg, W. Siegling und W. Thomas und einigen weiteren wettocharischen Textstellen. *Sprache* 39-2: 224–238.
- Schmidt, K. T. (2001) *Die westtocharische Version des Araṇemi-Jātakas in deutscher Übersetzung*. In: Bazin, Louis, and Peter Zieme (eds.) *De Dunhuang à Istanbul. Hommage à James Russell Hamilton*, 299–327. Turnhout: Brepols (Silk Road Studies 5).
- T. = *Taishō Tripiṭaka*.
- 田辺勝美・前田耕作 (1999) 『世界美術大全集 東洋編 第 15 巻・中央アジア』東京: 小学館.
- Thomas, Werner (1993) *Parallele Texte im Tocharischen und ihre Bewertung*. Stuttgart: Franz Steiner.
- TITUS = *Thesaurus Indogermanischer Text- und Sprachmaterialien*, Tocharian manuscripts from the Berlin Turfan collection, digitized images and texts.
= <http://titus.fkidg1.uni-frankfurt.de/texte/tocharic/tht.htm>. (2019 年 3 月 6 日閲覧)
- TochSprR(A) = Sieg, Emil and Wilhelm Siegling (1921) *Tocharische Sprachreste. I. Band: Die Texte, A. Transkription; B. Tafeln*. Berlin und Leipzig: de Gruyter.
- TochSprR(B) II = Sieg, Emil, and Wilhelm Siegling (1953) *Tocharische Sprachreste. Sprache B. Heft 2. Fragmente Nr. 71-633*. Aus dem Nachlass hrsg. von Werner Thomas. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Waldschmidt, Ernst (1956) *Das Mahāvadānasūtra: ein kanonischer Text über die sieben letzten Buddhas: Sanskrit, verglichen mit dem Pāli nebst einer Analyse der in chinesischer Übersetzung überlieferten Parallelversionen*. Berlin: Akademie Verlag.
- Wilkens, Jens (2016) *Buddhistische Erzählungen aus dem alten Zentralasien. Edition der altuigurischen Daśakarmapathāvadānamālā*. Brepols: Turnhout.

[追記]

筆者は、『東京大学言語学論集』第 40 号にて「古代期トカラ語 B による韻文題記について」と題する拙稿を出版した。筆者は拙稿 160 頁の題記に対する注釈(9)及び脚注 16 で、初出の語である *yṣetse** について検討した際、トカラ語 A に *yṣits(ts)e** ‘mat, couch’ という語が在証される点に言及したが、その後 Couvreur (1956: 94) が Toch.A *yṣits(ts)e** に対して ‘Hütte(?)’ という訳語を与えていたことを知った³⁶。この推定の根拠は記されていないが、この語義が正しいならば、筆者が与えた「僧坊」という語義が、一定程度の裏付けを有することになる。

³⁶ Couvreur, Walter (1956) Bemerkungen zu Pavel Pouchas *Thesaurus linguae tocharicae dialecti A. La Nouvelle Clío* 7-8, (1955-56): 67–98.

表 1. 写本 A 対照表

旅順蔵写本	ロシア蔵残片	葉数 (folio)	詩節	ドイツ蔵写本	葉数 (folio)	詩節
LM20-1551-22 (= B204)	—	259	25c-29a	B203	25 (?) ^①	22b-27c
—	SI 2943-3 (= SI B 16.9) ^②	—	27b-31c	—	26 (?) (欠)	27c-32b
—	—	260 (欠)	29a-32d	B205	27 (?)	32c-37a
LM20-1551-14	—	261	32d-36a	B206	28 (?)	37b-40d
—	—	262 (欠)	36a-39d	—	—	—
LM20-1552-8 fig.1	—	263 ^③	39d-40d	B249	—	= 38b-d, 40b-d ^①

[注釈]

この表の太線の右側には、既公表の断片を挙げている。左側の断片の内、B204 以外のものは、筆者によって比定されたものである。

- ① TochSprR(B) II: 11 には、この断片の folio 番号に関する記述は見られない。この断片の裏面左端にはグラーフミー文字の数字が残存しているが、数字の左側は欠落しており、確定できない。二つ見える数字の内、上の数字は<20>と思われるが、<80><90>の可能性もある。一方、下の数字は<5>である。この推定によって、B205, 206 の folio 番号を推定した。
- ② この断片は左端を欠いているため、folio 番号を推定できない。
- ③ この断片の裏面の一行目冒頭に、異なる韻律の名称が書かれており、ここから新しい讀仏詩の第一詩節が始まっていると確定できる。
- ④ 荻原 (2019: 110) では 39d-40d としているが、誤りであるため、ここに訂正する。

表2. 写本B対照表

旅順蔵写本	葉数 (folio)	詩節	ドイツ蔵写本	イギリス蔵断片	葉数 (folio)	詩節
—	1 (欠)	1-2/3	B71 + B72	—	1 ^⑩	1-5
—	2 (欠)	3-6b/c	—	—	2 (欠)	5-10
LM20-1551-1 frg.1	3	6c/d-9c	—	—	—	—
LM20-1552-12 + LM20-1551-1 frg.2	4	9c-12d	B73	—	3	11a-16a
LM20-1552-11	5	12d-15c	—	IOL Toch 89 (= B75) ^⑫	—	13a-16b
LM20-1552-9	6	15d-18b	B74	—	4	16a-21a
LM20-1552-13 + LM20-1552-15 frg.1	7	18b-21d	B76	—	5	21b-26a
—	8 (欠)	21d-24d	—	—	—	—
LM20-1551-3	9 ^⑨	24d-27d (?)	—	—	—	—

〔注釈〕

この表の太線の右側には、既公表の断片を挙げている。左側の断片は、筆者によって比定されたものである。

- ① TochSprR(B) II: 11 は B71 + B72 をこの写本の二枚目の folio と見做しているが、旅順所蔵断片 LM20-1551-1 frg.1 には対応部分は見られない。そのため、筆者は B71 + B72 は二枚目ではなく、最初の folio に相当すると推定した。ただし、一つの写本に複数の仏典が含まれている場合、「第一葉」は必ずしも写本全体の最初の folio であるとは限らず、それぞれの仏典の最初の folio が「第一葉」と書かれることもある。また、詩節番号が残されていないため、B71 + B72 の表裏は内容からは判断できない。
- ② この断片は左端を欠いているため、folio 番号を推定できない。
- ③ 荻原 (2012) では LM20-1551-3 が写本 B の八枚目の folio としたが、ドイツ所蔵写本との比較及び先行する folio に含まれる詩節数に基づき、LM20-1551-3 は九枚目の folio とすべきであることに気づいた。また、ドイツ所蔵写本は第 26 詩節 Pada a以降の部分を欠いており、LM20-1551-3 に含まれる詩節を確定できないため、ここでは先行する folio に含まれる詩節数を参考に推定した。

Reconstruction of *Buddhastotra* Verses in Tocharian B

Ogihara Hirotooshi

Keywords: Tocharian Buddhist literature, (Mūla-)Sarvāstivādins, *Buddhastotra*

Abstract

Of the Tocharian B manuscript fragments published in TochSprR(B) II, 49 (= B203–251) were identified as part of the *Buddhastotra*, with seven more (B71–76) constituting the beginning of the *Araṇemi-Handschrift*. Notably, with the exception of B204 (which belongs to the Ōtani collection in the Lushun Museum) and B75 (which belongs to the London collection), B203–209 and B71–76 belong to a single manuscript, respectively. Since their identification as part of the *Buddhastotra* in TochSprR(B) II, there have been no philological studies on these *Buddhastotra* verses barring Prof. Inokuchi's study on B204, Couvreur's translation of B71–76 in Dutch and certain previous studies that discuss the words and passages in the verses.

I had the opportunity to participate in a research project conducted by the Lushun Museum and Ryukoku University in 2011. The project was aimed at investigating the manuscript remains in non-Chinese scripts in the museum. Of the Brāhmī script fragments that I studied, I identified 10 as texts parallel to B203–206 and B73–76. The terms “manuscript A” and “manuscript B” were assigned to B203–206 and B73–76, respectively. In addition, in the course of my research on the Russian Tocharian collection in 2016, one Tocharian B fragment was identified as being parallel to B204.

In this study, I present the reconstruction of the *Buddhastotra* verses belonging to manuscripts A and B, mainly based on the manuscript fragments from the Berlin collection and Lushun Museum. Although each group reflects different linguistic stages of Tocharian B, their texts basically concur with each other. This suggests that these *Buddhastotra* verses were popular in Kuchean Buddhism for a long time.

(おぎはら・ひろとし 京都大学白眉センター/文学研究科)